

状態変化動詞と使役交替*

カン・ミンギョン

(東京外国語大学大学院博士後期課程)

0. はじめに

brechen「折る／折れる」, *öffnen*「開ける／開く」などに代表されるドイツ語状態変化動詞¹は、同形で他動詞的にも自動詞的にも用いられることから、使役交替をめぐる議論の中で取り上げられることが多い。

- | | | |
|-----|---|-------------|
| (1) | a. Er hat <i>den Ast</i> in zwei Teile gebrochen. | 彼は枝を二つに折った。 |
| | b. <i>Die Äste</i> brachen. | 枝が折れた。 |
| (2) | a. Er öffnete <i>die Tür</i> . | 彼はドアを開けた。 |
| | b. <i>Die Tür</i> öffnete sich. | ドアが開いた。 |

(1a) (2a) では、それぞれ「彼が枝を折った」「彼がドアを開けた」という出来事が表わされている。これらの使役的表現の中には、「枝が折れた」「ドアが開いた」という結果的意味内容が内包されており、² それが (1b) (2b) のように、使役主が取り除かれた非使役的

* 本稿は、2005年2月28日に東京外国語大学で開かれた「21世紀COE「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」2004年度第12回研究会」における口頭発表の内容に加筆・修正を加えたものである。

¹ ここで言う「状態変化動詞 (Zustandsveränderungsverben)」とは、「動詞の表す出来事の実現によってある対象の状態が変化する」ことを、動詞の語彙的意味として含意しているものを指す。具体的には、次のような3つのタイプのものを想定している。第1に、「物の形状の変化を表わす動詞 (BRECHEN タイプ: たとえば *biegen* 「曲げる／曲がる」, *brechen* 「折る／折れる」, *reißen* 「裂く／裂ける」など)」、第2に、「質的变化を表わす動詞 (HEILEN タイプ: このタイプには、たとえば *heilen* 「治す／治る」, *schmelzen* 「溶かす／溶ける」, *trocknen* 「乾かす／乾く」以外にも、*röten* 「赤くする／赤くなる」, *färben* 「染める／染まる」のような色の変化を表わす動詞や、*öffnen* 「開ける／開く」, *schließen* 「閉める／閉まる」のような物の開閉を表わす動詞など様々なものが含まれる)」、第3に、「対象Aの移動による対象Bの状態変化を表わす動詞 (FÜLLEN タイプ: このタイプは、*füllen* 「いっぱいにする／いっぱいになる」のようにある物が加えられることによる状態変化を表わすタイプと、*leeren* 「空にする／空になる」のようにある物が除かれることによる状態変化を表わすタイプに下位分類できる)」である。したがって、たとえば *rollen* 「転がす／転がる」のような移動を表す動詞や、*freuen* 「喜ばす／喜ぶ」, *ärgern* 「怒らせる／怒る」のような人の心理的变化を表す動詞、*avancieren* 「昇進する」, *entheben* 「罷免する」のような人の社会的地位の変化を表す動詞はここで言う「状態変化動詞」には含まれない。さらに、*zum Ausbruch kommen* 「勃発する／爆発する」, *zum Schweigen bringen* 「黙らせる」のような機能動詞表現および結果構文など、統語形式による状態変化表現に用いられる動詞も本稿では対象としない。なお、第3タイプは、「第三者の移動」が絡んでいるという点で前の2つのタイプとは区別される。ちなみに、英語の状態変化動詞は、L&RH (1995) によって「内的状態変化動詞 (Internally Caused Change of State Verbs)」, 「外的状態変化動詞 (Externally Caused Change of State Verbs)」に分類され、McKoon/Macfarland (2000), Wright (2001) などでも、その分類に基づいた研究が行なわれている。

² L&RH (1995: 117) にも次のように述べられている。

With a causative alternation verb, the causative use entails the noncausative use, so that if someone breaks something, then that thing breaks.

表現として実現されるということが出来る。³ また逆に、「枝が折れた」「ドアが開いた」という出来事が生じるためには、人が直接力を加えるなり、強い風が吹くなり、何らかの使役的原因が存在すると考えられ、「状態変化」の出来事はその使役主を含めて使役的に表わすことができるのである。このように、一つの動詞が使役的にも非使役的にも用いられ、その際、使役的表現（他動詞用法）の目的語（以下「他目」）と非使役的表現（自動詞用法及び再帰用法）の主語（以下それぞれ「自主」「再主」）が同じ指示対象を表わす文法現象を「使役交替（Kausative Alternation）」という。⁴

ここで、使役交替する状態変化動詞の意味構造を次のように示すことができる。(1a) (2a) に共通する使役的事柄の意味構造は (3a) に、(1b) (2b) に共通する非使役的事柄の意味構造は (3b) に、それぞれ当てはまる。

- (3) a. x CAUSE [y CHANGE-of-STATE]
 b. [y CHANGE-of-STATE]

このように、「(広義の) 状態変化」という出来事は、「ある対象に対する使役的働きかけ（あるいは原因）」と、その結果生じる「対象の状態変化」から成る複合的事象であるといえる。「状態変化」を表わす事柄のこのような2つの局面から、状態変化動詞は、(3a) のような使役的状态変化表現（X が Y の状態を変化させる）と (3b) のような非使役的状态変化表現（Y の状態が変化する）に用いられると考えられる。「状態変化」の事柄に基本的に常に (3a) (3b) の2つの意味構造が認められるとするならば、状態変化動詞は理論的にすべての場合使役交替が起こりうると想定することができる。そのため、使役交替は状態変化動詞の統語的特性の一つとして挙げられることが多い。

1. 問題提起

1-1. 状態変化動詞はすべて使役交替するのか

カン（2001）では、網羅的に収集した約320のドイツ語状態変化動詞を対象に、辞書の意味記述に基づいて、使役交替の観点から分類を行っている。まず、使役交替を示さない動詞グループと使役交替を示す動詞グループに分類し、さらに、前者は他動詞用法でのみ用いられる動詞（以下「絶対他動詞」）と自動詞用法でのみ用いられる動詞（以下「絶対自動詞」）に、後者は「他自動詞」「他再動詞」に分類し、計4つの動詞グループに見られるそれぞれの意味的特性を考察した。そこでは、状態変化動詞の中には使役交替が成立しな

³ 「使役的表現」は使役主が文中に現れる「他動詞用法（受動文も含めて）」と同じ概念で、「非使役的表現」は使役主が文中に現れない「自動詞用法」及び「再帰用法」の両方を含む概念で用いる。そのため、ここでいう「使役（Kausativ）」は、lassen 構文「～させる」による使役とは区別される。中右・西村（1998: 120f.）を参照。

⁴ ドイツ語の場合、使役的表現に対応する非使役的表現が (1b) のように自動詞構文で表わされるパターンと (2b) のように再帰構文で表わされるパターンがある（詳しくは、大矢（1996, 1997）、成田（1999）、カン（2001）を参照）が、本稿ではそれらの違いについては触れない。なお、前者に当てはまる動詞を「他自動詞」、後者に当てはまる動詞を「他再動詞」と呼ぶ。

いものもたくさん存在するということが強調されている。以下に簡単にまとめる。

まず、絶対他動詞の意味特徴として次の3つが挙げられる。それは、第1に「動詞の表わす出来事に特定の道具の使用が含意されている」、第2に「動詞の表わす出来事に特定の手段的行為が含意されている」、第3に「物を移動させることによる、ある対象の状態変化を表す」である。

たとえば、動詞 *hacken* 「(斧などで) 叩き割る」、*aufschließen* 「(～の鍵を) 開ける、(鍵を使って) 開ける」の場合、(4) (5) に見られるように、使役的表現 a に対応する非使役表現 b は認められない。それは、(6) (7) に示す辞書の意味記述でも確認できるように、これらの動詞は特定の道具 (*hacken* の場合は「斧」、*aufschließen* の場合は「鍵」) の使用を含意しているため、道具の使い手である人間 (つまり使役主) を取り外して非使役的出来事として表わすことができないからであると考えられる。⁵

- (4) a. Er hat *einen Stuhl* zu Brennholz gehackt. 彼は (斧などで) 椅子を叩き割って薪にした。
b. *Der Stuhl ist zu Brennholz gehackt.
- (5) a. Er hat *die Tür* aufgeschossen. 彼は (鍵で) ドア (の錠) を開けた。
b. *Die Tür hat [sich] aufgeschossen.
- (6) **hacken** [vt] etwas mit kräftigen Hieben in Stücke teilen (oder zerstören), besonders mit einer Axt, einem Beil oder einem Messer
- (7) **aufschließen** [vt] ein Schloss mit einem Schlüssel öffnen

また、動詞 *aufstoßen* 「(押して／突いて) 開ける」、*totschlagen* 「打ち殺す・殴り殺す」の場合も、(8) (9) に見られるように使役的表現のみが可能だが、それは、(10) (11) に示す辞書の意味記述でも確認できるように、対象の状態変化とともに、その結果状態をもたらす使役主の具体的行為が動詞の意味要素として含意されているからであると考えられる。

- (8) a. Er hat *die Tür* aufgestoßen. 彼はドアを 押し 開けた。
b. *Die Tür stieß [sich] auf.
- (9) a. Er hat *eine Ratte* mit einem Stock totgeschlagen. 彼はネズミを棒で 殴り 殺した。
b. *Die Ratte schlägt [sich] tot.
- (10) **aufstoßen** [Vt] etwas *durch einen Stoß* öffnen
- (11) **totschlagen** [Vt] jemanden / ein Tier *durch Schläge* töten

なお、これらの動詞はいずれも、結果を表す前つづり (*auf* 「開いた」、*tot* 「死んだ」) と行為を表す基礎動詞 (*stoßen* 「押す／蹴る」、*schlagen* 「殴る」) からなる複合動詞であり、使役行

⁵ 類例として、*Die Mutter schnitt für die Kinder das Brot*. 「お母さんが子どもたちのためにパンを切った」、*Sie hat die Wäsche gebügelt*. 「彼女は洗濯物にアイロンをかけた」、*Sie hat die zerrissene Hose geflickt*. 「彼女は破れたパンツを繕った」などが挙げられる。動詞 *schneiden* 「切る」、*bügeln* 「アイロンをかける」、*flicken* 「繕う・割れ目をふさぐ」の語彙の意味には、それぞれ「ナイフ」「アイロン」「裁縫道具」といった道具的要素が含まれている。

為の様態とそれによる結果状態がそれぞれ形態的に示されるという点で特徴的である。⁶

さらに人間の具体的な行為が前提とされる「状態変化」の出来事として、「道具の使用」や「手段的行為」が含意される場合のほかに、ある物を「付け加えたり」「取り除いたり」することが含意される場合がある。

- (12) a. Sie haben *das Zimmer* neu tapeziert. 彼らは部屋に新しく壁紙を張った。
b. **Das Zimmer* tapeziert [sich].
- (13) a. Er hat *den Tisch* abgeräumt. 彼は(不要なものを片づけて)食卓をきれいにした。
b. **Der Tisch* hat [sich] abgeräumt.

(12a) では、壁紙を張ることによる部屋の「状態変化」が、(13b) では、食器などを片づけることによるテーブルの「状態変化」が、それぞれ表わされている。これらの出来事の場合も、ある物を移動させる行為を行う使役主の存在が間接的に動詞の意味要素として含まれていると考えられる。

以上、「絶対他動詞」に見られる3つの意味特徴について述べたが、まとめると、「絶対他動詞」は、「対象の状態変化」と並んで、それを引き起こす「使役主の出来事への関与」が語彙的に前提とされていることから、「非使役の状態変化」を表わすためには用いられないということである。なお、「絶対他動詞」に見られる「道具の使用」や「手段の使役行為の様態」といった意味特徴は、使役交替を示す「他自動詞」「他再動詞」には当てはまらない。Voorst (1995) は、使役交替動詞の使役的表現の場合、「どのようにして」その出来事を引き起こしたのかについての情報が語彙的に含意されていないと指摘している。

一方、使役的表現が不可能で、非使役的表現にのみ用いられる動詞(絶対自動詞)もある。絶対自動詞の意味特徴は、第1に「自然力による状態変化」、第2に「対象の内在的要因による状態変化」、の2つにまとめることができる。

たとえば次のような出来事は、いずれも自然界における状態変化を表わしており、その他の外部の力がその出来事を直接「使役的」に引き起こすことはできない。

- (14) a. *Er/**Die Sonne* wird die Knospen aufspringen. 彼は/陽光がつぼみ開くだろう。
b. *Die Knospen* werden bald aufspringen. つぼみはもうすぐ開くだろう。
- (15) a. *Er/**Die Feuchtigkeit* rostet Eisen. 彼は/湿気は鉄を錆びさせる。
b. *Eisen* rostet, wenn es feucht gelagert wird. 鉄は湿った所に置かれると錆びる。
- (16) a. *Er/**Die Kälte* hat das Tauwasser gefroren. 彼は/湿気が溶けた水を凍らせた。
b. *Das Tauwasser* ist zu Eiszapfen gefroren. 溶けた水が凍ってつららになった。

⁶ 類例として、Er hat *den Hahn* aufgedreht/zugedreht. 「彼は栓をひねって開けた／閉めた」、Er hat *den Vorhang* aufgezogen/zugezogen. 「彼はカーテンを引いて開けた／閉めた」、Er hat wieder *einen Flüchtling* erschossen. 「彼はまた亡命者を射殺した」などが挙げられる。

もちろん、このような自然における「状態変化」にも、厳密に言うとは温度・湿度といったさまざまな原因が作用している。しかし、言語表現においてこれらの自然力は、対象に直接働きかける使役主として認識されていないため、(14a) (15a) (16a) のような使役的表現は認められないと考えられる。

また、対象の内在的要因による状態変化として、次のような場合が挙げられる。

- | | | |
|------|------------------------------------|--------------------|
| (17) | a. *Er hat eine Bombe explodiert. | 彼が爆弾を爆発させた。 |
| | b. <i>De Bombe</i> ist explodiert. | 爆弾が爆破した。 |
| (18) | a. *Freude errötete sie. | うれしさが彼女（の顔）を赤らめた。 |
| | b. <i>Sie</i> errötete vor Freude. | 彼女はうれしさで（顔が）赤くなった。 |

まず (17b) のような事態には、場合によって人間の関与が想定できることもある。ただし、この場合の外的関与とは、たとえば、爆弾が爆発することを放置するか、あるいは爆発を誘導する一定の条件を与えるまでであり、実際に爆発してしまうのは爆弾が内在的に持っている力によるものと考えられる。このような内的要因は、対象に直接働きかける使役主として認識されていないため、内的要因によって生起する出来事は「非使役的状态変化」としてのみ表現されると考えられる。また、これらの動詞が表す事態の非使役性は、「突然」「自ずと」などの副詞による辞書の語義記述からも伺える。

- | | | |
|------|--------------------|--|
| (19) | aufspringen | [Vi] etwas öffnet sich plötzlich <i>von selbst</i> |
| (20) | explodieren | [Vi] etwas wird mit einem lauten Geräusch oder einem Knall <i>plötzlich</i> zerrissen, platzt oder verbrennt |

(18) は心理的な要因による顔色の変化を表わしているが、これも (17) と同様に、外的な働きかけが直接引き起こすものとは考え難い。ちなみに、*Die Kälte rötete sein Gesicht*. 「寒さが彼の顔を赤らめた」／*Sein Gesicht hat sich von der Kälte gerötet*. 「彼の顔は寒さで赤らんだ」というように、寒さが原因になる場合は、使役的にも非使役的にも表わすことができ (3-2 で触れる)、同じく「顔が赤くなる」という事柄を表わす表現においても、原因（使役主）が何かによって可能な構文形式が異なる。また、動詞 *röten* と *erröten* では、前者が「顔」を状態変化の対象にしているのに対し、後者は「(顔色が赤くなる) 人」を状態変化の対象としている点においても興味深い違いが見られる。⁷

冒頭で (3) に示した意味構造は、基本的にすべての「状態変化動詞」に想定できるものである。しかし、上述したように、その意味構造に「どのような状態変化か」を表わす具体的な事柄の意味が挿入され、それぞれの語彙が形成される際に、何らかの要因で使役と非使役の対応関係にずれが生じてくるのである。

⁷ *Sie erblasste vor Schreck*. 「彼女はショックで顔が青ざめた」というように、*erblassen* の場合も同様のことが言える。

1-2. 使役交替動詞はすべての名詞において使役交替するのか

前節では、動詞の語彙レベルにおいて使役交替が制限される場合について述べた。しかし、状態変化動詞における使役的表現と非使役的表現の対応のずれは、絶対他動詞や絶対自動詞だけでなく、使役交替を示す動詞（他自動詞や他再動詞）の中にも見られる。

- (21) a. Er hat *den Ast* in zwei Teile gebrochen. 彼は枝を二つに折った。
b. *Die Äste* sind gebrochen. 枝が折れた。
- (22) a. Er brach *sein Schweigen*. 彼は沈黙を破った。
b. **Das Schweigen* brach. 沈黙が破れた。

(21) (22) は、使役交替動詞 *brechen* において、*Ast* 「枝」の場合は使役交替が可能であるが、*Schweigen* 「沈黙」の場合は使役的用法のみが可能で使役交代が成立しないことを示している。このように、名詞によって使役交替の成立に相違が見られるということは、動詞の意味用法に関わる問題であり、それは辞書（Langenscheidt 1999）の意味記述にも確認することができる。⁸

(23) *brechen*

[Vt] (hat) **1 etwas brechen** *etwas Stabiles oder Hartes mit Gewalt in zwei oder mehrere Stücke teilen*: eine Stange, einen Ast in zwei Teile brechen **2 sich (Dat) etwas brechen** sich so verletzen, dass sich der Knochen eines Körperteils in zwei Teile teilt: *Er hat sich beim Skifahren das Bein gebrochen* **3 etwas brechen** die Gültigkeit eines Versprechens oder einer Regelung missachten, sich nicht daran halten <einen Vertrag, ein Versprechen, den Waffenstillstand brechen> **4 etwas brechen** etwas, das ein Hindernis o.Ä. darstellt, überwinden oder beugen <jemandes Trotz, Widerstand, Willen brechen> **5 etwas bricht** etwas etwas lenkt einen Lichtstrahl, Schallwellen o.Ä. in eine andere Richtung: *Wasser bricht das Licht* **6 etwas brechen** Gestein mit bestimmten Geräten aus Felsen o.Ä. lösen <Marmor, Schiefer, Steine brechen> **7 das / sein Schweigen brechen** geschr; nach relativ langem Schweigen dann doch über etwas reden **8 sein Wort brechen** ein Versprechen, das man gegeben hat, nicht halten **9 einen Rekord brechen** eine Leistung bringen, die den bestehenden Rekord übertrifft;

[Vi] **11 etwas bricht** (ist) etwas teilt sich unter äußerem Druck oder durch Gewalt in zwei oder mehrere Stücke: *Das Brett ist in der Mitte gebrochen; Die Äste brachen unter der Last der Früchte*

このように *brechen* の場合、使役交替が起こりうるのは、意味用法 1 と 11 に挙げられている「具体物の形状の変化」を表わす意味用法に限られる。使役的用法には、たとえば, *Er hat sich beim Skifahren das Bein gebrochen* 「彼はスキーで足を折った」や, *den Waffenstillstand/ ein Versprechen/ das Schweigen/ den Rekord brechen* 「停戦を破る／約束を破る／沈黙を破る／記録を

⁸ ここで挙げる辞書の意味記述は、それぞれの動詞の意味用法のうち使役交替に関わる意味用法のみを抜き出したものである。したがって、たとえば動詞 *brechen* には、*Blut brechen* 「血を吐く」、*mit der Gewohnheit brechen* 「習慣をやめる」などの意味用法もあるが、それらはここでは取り上げない。またそれは、2-2 で述べるコーパスデータの収集の際にも適用される。欠けている意味用法の番号があるのはそのためである。

破る」のようなメタファー的な意味用法（抽象的な状態変化）もあるが、これらは非使役的には用いられない。⁹ このように、多義的に用いられる動詞の場合は、そのすべての意味用法において使役交替が成り立つのではなく、一部の意味用法でのみ使役交替が起こりうるのである。

また、(22) の場合とは逆に、非使役的表現のみが可能で使役的表現が制限される場合もある。

- | | | | |
|------|----|-------------------------------------|-------------|
| (24) | a. | Er hat <i>den Ast</i> gebogen. | 彼は枝を曲げた。 |
| | b. | <i>Die Äste</i> haben sich gebogen. | 枝が曲がった。 |
| (25) | a. | *Er hat <i>den Tisch</i> gebogen. | 彼はテーブルを曲げた。 |
| | b. | <i>Der Tisch</i> hat sich gebogen. | テーブルが曲がった。 |

(24) (25) に見られるように、「枝が曲がる」という出来事は、使役的にも非使役的にも表わすことができるが、「テーブルが曲がる」という出来事は、何らかの重さでテーブルが曲がってしまうという非使役的表現のみが可能で、人が直接テーブルを曲げるという使役的表現は認められない。それは、現実における実際の出来事としてそのような状況が想像しがたいことから納得がいく。動詞 *biegen* の場合も辞書 (Langenscheidt 1999) の意味記述を見てみよう。

(26) *biegen*

[Vt] (*hat*) **1 etwas biegen** etwas durch Druck in seiner Form so verändern, dass es nicht mehr gerade ist <eine Stange, einen Draht, ein Blech biegen>: *Der Schlosser konnte das Rohr erst biegen, nachdem er es heiß gemacht hatte* **2 etwas irgendwohin biegen** einen Körperteil von seiner normalen Position in eine bestimmte Richtung bewegen: *den Kopf nach hinten / vorn biegen; den Daumen zur Seite biegen* **3 etwas irgendwohin biegen** etwas, das einen behindert, in eine bestimmte Richtung bewegen und es dabei leicht verformen: *einen Ast zur Seite biegen*;

[Vr] (*hat*) **5 etwas biegt sich** etwas gibt unter Druck nach und ist (*meist* nur für eine bestimmte Zeit) nicht gerade: *Der Baum bog sich im Wind; Die Matratze bog sich unter seinem Gewicht*

(24) (25) に挙げた例は、いずれも意味用法 1 と 5 に当てはまるものであるが、(24) の「枝 (Ast)」の場合は使役交替が成り立つのに対して、(25) の「テーブル (Tisch)」の場合では使役的表現が容認されず、使役交替が成り立たない。しかし、このような事実は、辞書における記述からは読み取ることができない。

このように、使役交替動詞における使役交替の制限は、(22) に示したような抽象名詞と結びついたメタファー的な用法の場合に限られるものではなく、同じ意味用法 (*biegen* の場合、「具体物を曲げる／具体物が曲がる」) においても観察される。同じ意味用法の中でも、

⁹ ただし、実際のコーパスデータには、*Dem Opfer brachen zwei Rippen, (...) [Frankfurter Rundschau, 01.08.1997]* 「被害者は肋骨が 2 本折れて、(…)」のように、自動詞用法で「体の一部を怪我する」という意味が表わされる事例も見られる。それについては、第 3 節で触れる。

使役交替が成立する事柄と成立しない事柄があるということは、たとえば「何が brechen するのか」「何が biegen するのか」というように、状態変化の対象を表わす名詞句の意味内容を考慮する必要があるということを示唆しているものと思われる。

以上、名詞の意味内容が使役交替に大きく関わっていることを述べた。すなわち、同じ動詞で表わされる出来事でも、どのような名詞と結びつくかによってその出来事の性質がそれぞれ異なるのである。(22) のように動詞が抽象的な意味に拡張された場合には言うまでもないが、(25) のように出来事自体は同じ種類のものであっても、その対象が異なる場合には出来事の性質も変わってくる。まとめると、使役交替は、動詞の統語的・意味的特性だけでなく、動詞と結びつく名詞の意味内容と動詞の意味用法を含めて文全体が表わす事柄のレベルで分析を行なう必要があるということである。

2. 方法論

1 では、状態変化動詞の使役交替は、動詞の語彙的特性によって制限される場合（絶対他動詞・絶対自動詞）と、使役交替動詞（他自動詞・他再動詞）の中でも結びつく名詞によって制限される場合があることについて述べた。それは次のような表にまとめることができる。

【表 1】状態変化動詞における使役交替

	語彙レベル〈動詞〉		事柄レベル《名詞＋動詞》		タイプ	
状態 変化 動詞	－使役交替	絶対他動詞〈使役的表現のみ〉			[1-a]	①
		絶対自動詞〈非使役的表現のみ〉			[1-b]	
	＋使役交替	他自動詞 他再動詞	－使役交替	《使役的表現のみ》	[2-a]	②
				《非使役的表現のみ》	[2-b]	
				＋使役交替	使役的・非使役的表現	[2-c]

これまでの研究において使役交替は、語彙レベルにおいて使役交替を示す状態変化動詞、その中でも交替が見られる意味用法（[2-c]）を中心に議論されてきた。その結果、使役交替を示さない状態変化動詞（[1-a]及び[1-b]）や、使役交替動詞の中でも交替が見られない意味用法（[2-a]及び[2-b]）については、体系的に検討されてこなかったように思われる。しかし、使役交替の本質を明らかにするためには、使役交替を示す場合だけでなく、使役交替が制限される場合をも含めて分析する必要がある。

そこで本稿では、使役交替を示す状態変化動詞のコーパス事例に基づいて、それぞれの動詞と結びつく名詞（他目と自主・再主）を取り出し、それらの対応関係を調査することによって、事柄レベルにおいて使役交替が成立する場合と成立しない場合それぞれの特徴の抽出を試みる。そして、上で述べた語彙レベルにおいて使役交替が制限される場合（絶対他動詞[1-a]と絶対自動詞[1-b]）と、事柄レベルにおいて使役交替が制限される場合（使役交替動詞の意味用法の中で使役的用法のみ可能な事柄[2-a]と非使役的用法のみ可能な事

柄[2-b])にそれぞれ共通する意味的特性(すなわち、使役的表現のみ可能な事柄の意味的特性①と、非使役的表現のみ可能な事柄の意味的特性②)を明らかにする。それによって、使役交替の成立・制限に関わる事柄の意味的規則性を見出すことが本稿の目的である。

2-1. 調査対象の動詞

本稿では、コーパス調査の対象として、「ドイツ語基本動詞 1300」¹⁰に含まれている状態変化動詞の中で単一動詞のみを取り上げる。状態変化を表わす動詞の中には当然ながら複合動詞(分離動詞や非分離動詞)も多く存在するが、複合動詞は、前つづりの影響で、ある特定の局面に焦点が当てられるか動詞の表わす意味の結果状態が特定化されている場合が多く、状態変化動詞としての純粋な語彙的意味を考察することができないと思われるからである。たとえば、動詞 *abbrechen*「折り取る／折れて取れる」は、*Der Ast ist bei starkem Wind abgebrochen*。「強い風で枝が折れた」として用いられた場合、「枝が折れた」という「枝それ自体の状態変化」よりも「枝が折れて(木から)取れた」という「枝の移動」の方に焦点が当てられるが、それは前つづり *ab* の表わす「離れて、取れて、はずれて」という移動の意味の影響であると言える。また、動詞 *aufbrechen*「(こじ)開ける／開く」¹¹や、動詞 *zerbrechen*「(細かい破片に)割る／割れる」の場合、前つづり *auf* の表わす「開いた」という副詞的意味や *zer* の表わす「分解・破壊」という意味が、それぞれの動詞の表わす結果状態を特定化していると言える。ここでは、動詞それ自体の純粋な語彙的意味として、使役交替に関わる状態変化動詞の中核的な意味を抽出することが目的なので、単一動詞のみを取り上げることにする。なお、*füllen*「いっぱいにする／いっぱいになる」、*leeren*「空にする／空になる」のような、他の物の移動による状態変化を表わす FÜLLEN タイプの動詞は、状態変化の主体の他に、加えられたり除かれたりする移動の主体も絡んでいるという点で、いわゆる状態変化動詞とは意味的に区別される。本稿では、このタイプの動詞は取り除き、対象の形状の変化を表わす BRECHEN タイプの動詞と、対象の質的变化を表わす HEILEN タイプの動詞のみを調査対象とする。¹² 以下に、動詞の一覧を示す。

¹⁰ 「ドイツ語基本動詞 1300」とは、以下の 13 の辞書のうち、12 以上の辞書に記載されているものをいう。

1. Bedeutungswörterbuch (Schüler Duden: Bd. 2), Mannheim, 1976.
2. Das Bedeutungswörterbuch (Duden: Bd. 10), Mannheim, 1970.
3. Enzyklopädisches Wörterbuch: Deutsch-Englisch, Berlin, 1974.
4. Fremdwörterbuch (Schüler Duden: Bd. 4), Mannheim, 1975.
5. Friedrich. 10.000 Wörter, München, 1965.
6. Handwörterbuch: Deutsch-Englisch, Berlin, 1965.
7. Kleines deutsches Wörterbuch, Mannheim, 1976.
8. Mackensen, Der tägliche Wortschatz, München, 1977.
9. Sprachbuch, Freiburg, 1960.
10. Ullstein Lexikon der Deutschen Sprache, München, 1969.
11. Wahrig: dtv-Wörterbuch der deutschen Sprache, München, 1978.
12. Wohlgemuth / Berglund: Wort für Wort, München, 1969.
13. Wörter und Wendungen, Leipzig, 1977.

¹¹ 動詞 *aufbrechen* は、他動詞用法では、*Tür*「ドア」、*Schloss*「錠」などの他目と結びついて「力ずくで破って(*brechen*)開ける(*auf*)」という意味を表わすが、自動詞用法では、*Eisdecke*「氷」、*Narbe*「傷跡」、*Blüte*「花」などの主語と結びついて「自然に開く」という意味を表わす。

¹² 本稿は、状態変化動詞の意味的分類を行なうものではないので、それぞれの動詞が BRECHEN タイプに属するのか、HEILEN タイプに属するのか、という問題には立ち入らない。

【表 2】コーパス調査対象の動詞リスト¹³

〈他自動詞〉		〈他再動詞〉	
brechen	折る／折れる	biegen	曲げる／曲がる
heilen	治す／治る	dehnen	のばす／のびる
knicken	折り曲げる／折れ曲がる	falten	折り畳む／しわがよる
reifen	熟させる／熟す	färben	染める／染まる
reißen	裂く／裂ける	öffnen	開ける／開く
schmelzen	溶かす／溶ける	röten	赤くする／赤くなる
tauen	解かす／解ける	schließen	閉める／閉まる
trocknen	乾かす／乾く	spalten	割る／割れる
weichen	柔らかくする／柔らかくなる		

2-2. コーパスデータの収集

データ収集は、ドイツのマンハイムにあるドイツ語研究所 (Institut für deutsche Sprache: IDS) がインターネット上に公開しているコーパス検索システム COSMAS II¹⁴を用いて、Public – alle öffentlichen Korpora geschriebener Sprache(書き言葉コーパス全体)¹⁵を検索対象として行なった。データ収集の具体的な手順は以下のとおりである。¹⁶

まず第 1 段階で、それぞれの動詞の事例を無作為 (durch Zufallsauswahl reduzieren auf ~) で 200~500 例取り出す。検索語は、たとえば「&brechen」と入れることで、動詞の活用形 (bricht, brach, gebrochen, brechen など) を含む事例が収集できる。しかし、「&brechen」で検索した場合、「bricht ab」「brechen aus」のような分離動詞の事例も含まれてしまうため、この段階では、本稿の分析に不要なものも入り混じっている。

次に第 2 段階では、第 1 段階で抽出された各動詞の事例から、不要な事例を取り除き、分析対象とする 100 例を確定する作業を行なう。この段階で除外されるものは、分離動詞の事例のほかにも、方向を示す前置詞句と結びついて対象の移動を表す場合 (als ihr der Mann plötzlich die Tasche aus der Hand riß (...))「ある男が突然彼女の手からバックをひったくつ

¹³ 状態変化を表わす単一動詞には、backen「焼く／焼ける」、braten「焼く／焼ける」、kochen「煮る／煮える」、sieden「沸騰する／沸騰させる・ゆでる」のような料理に関連する他自動詞や、ändern「変える／変わる」、wandeln「変化させる／変化する」、bessern「改善する／改善される」のような具体的な結果状態を含意しない他再動詞もあるが、これらの動詞は今回の調査対象としない。ちなみに前者の料理動詞の場合は、Sie kocht gern.「彼女は料理するのが好きだ」のように行為を表わすのに用いられったり、自動詞用法の場合、Der Kessel siedet.「やかんの湯が沸騰している」、Die Eier sieden schon.「卵がゆであがっている」のように状態を表わすのに用いられったりすることが多く、状態変化を表わす意味用法における使役交替として捉えにくい部分がある。動詞 braten も、他動詞用法では Fleisch braun braten「肉をこんがり焼く」のように料理動詞で用いられるが、自動詞用法では in der Sonne braten「(肌を焼くために) 日光浴をする」という意味になるため、他動詞用法と自動詞用法が使役交替の関係にあるとは言えない (なお、坪井 (1993) には、日本語の料理動詞「焼く／焼ける」「煮る／煮える」「炒める／炒まる」について、興味深い議論が見られる)。

¹⁴ 詳細は、ドイツ語研究所の当該サイト <http://www.ids-mannheim.de/cosmas2/>を参照されたい。

¹⁵ そこには、ドイツを始めオーストリア、スイスの新聞や雑誌、文学作品など、様々なジャンルのテキストなどが含まれている。

¹⁶ カン (2003) では、コーパス分析の方法論を検討するためサンプル調査を行なっている。本稿のデータ収集及び分析は、基本的にそれに準じて行なった。ただし今回は、インフォーマントテストの導入により若干の変更があるが、それについては次節で詳しく述べる。

て)」や、特定の名詞と結びついて慣用表現として定着した形で使われる場合（Denn er *log, daß sich die Balken bogen*.「というのも、彼は大嘘をついた（>梁が曲がるほど嘘をつく）から」）など、使役交替における他目と自主・再主の対応関係を分析する用法として適切ではないと思われる事例である。データ収集の第1段階で集める動詞別事例の数が200~500例のようにそれぞれ異なる理由も、動詞によって分析の対象から外される事例の数に差があるからである。

一方、事例数が少なく、分析対象の100例の収集が困難な動詞もあった。表1に示した動詞の中で *weichen* には、「柔らかくする／柔らかくなる」という状態変化を表わす意味用法のほかに、3格名詞を伴って「～に屈する、敗退する」という意味を表わす用法（たとえば、*der Gewalt weichen*「権力に屈する」、*dem Feind weichen*「敵に屈する」）や、*nicht von* 前置詞句と結びついて「～から離れない」という意味を表わす用法（たとえば、*Er wich nicht von ihrem Krankenbett*.「彼は（病気の）彼女のベッドから離れなかった」）もあるが、コーパス事例のほとんどは、3格を伴う「～に屈する、敗退する」「～から離れない」という意味で用いられていることがわかった。「柔らかくする／柔らかくなる」の意味で用いられる事例はごくわずか（10例以下；たとえば、*Die Kunsthandwerker aus dem Nildelta walkten und weichten die Blätter so lange, bis sie sich mit Wasser gefüllt hatten*.「ナイル三角州の芸術的職人たちは、葉をこねたり叩いたりして、葉が水分で満ちるまで時間をかけて柔らかくした。」）しか見つからなかったため、調査対象から外した。¹⁷ また、*tauen* も検索したコーパス全体で90例しか見つからず、使用頻度があまり高くないことがわかった。¹⁸

以上のような手順で、*weichen* を除く他自動詞8と他再動詞8、合計16動詞の1590例のデータが収集できた。

2-3. データ収集方法の再検討

以上、データ収集方法について述べたが、ここで問題となるのが、無作為抽出をベースとして収集された各動詞の100例のデータが、果たしてその動詞の使役交替に関する振る舞いの全体的傾向を反映していると言えるかどうかという点である。そこでここでは、同じ方法で収集した2回のデータを比べてみることによって、データ収集方法の妥当性を再検討する。具体的には、カン（2003）で取り上げた動詞と今回の調査対象で重なる3つの動詞 *brechen*, *biegen*, *reißen* について、それぞれの調査結果の比較を行なう（便宜上、カン（2003）での調査を「調査 i」、今回の調査を「調査 ii」と呼ぶ）。

¹⁷ ちなみに、「柔らかくする／柔らかくなる」という意味を表わす場合は、主に動詞 *aufweichen* が用いられていることが確認できた（たとえば、[...]- vor der Pause prasselte der Regen und *weichte* den Platz *auf* [...]「ハーフタイムの前に雨がぱらぱらと降って、グラウンドを柔らかくした」）。ただし、*weichen* と *aufweichen* とでは、前者が「ある対象を水につけるなどして柔らかくする」という事柄を表わすのに対し、後者は「雨が降って地面を柔らかくする」といった事柄を表わす、というようにそれぞれの動詞が表わす事柄のタイプが異なる。動詞 *aufweichen* の他動詞用法では、実際、*Regen*「雨」が主語に現れている事例が多く見られた。

¹⁸ *weichen*, *aufweichen* と同様に、*tauen* に比べて *auftauen* の使用頻度が高かったが、*tauen* と *auftauen* に見られる意味的相違は、前者が「雪や氷が解ける／（太陽などが）雪や氷を解かす」という事柄を表わすことが多いのに対し、後者は「食料品などを解凍する」という意味で用いられることが多く、意味用法は *weichen* と *aufweichen* の場合とはむしろ反対の関係にある。

まず、100 例中の使役的用法と非使役的用法の割合については、以下のような結果が得られた。

【表 3】100 例中の使役的用法と非使役的用法の事例数

動詞		他	自・再
<i>brechen</i>	調査 i	83	17
	調査 ii	78	22
<i>reißen</i>	調査 i	56	44
	調査 ii	59	41
<i>biegen</i>	調査 i	65	35
	調査 ii	66	34

表 3 に見られるように、同じ条件で 2 回の調査を行なった場合、使役的用法／非使役的用法の割合には同じような傾向が見られることが確かめられた。

次に、それぞれの動詞と結びつく名詞の種類に関しても 2 回の調査の結果を比較してみたが、大体同じ傾向が見られた。たとえば、*brechen* の場合、他目に多く現れたのは、調査 i で Rekord「記録」(Weltrekord「世界記録」などの複合名詞も含めて 8 例)、Bein「脚」(4 例)、Schweigen「沈黙」(3 例)、Gesetz「法」(3 例)、Tabu「タブー」(3 例) などだったが、調査 ii でもやはり Rekord「記録」(10 例)、Tabu「タブー」(4 例)、Versprechen「約束」(3 例)、Schweigen「沈黙」(2 例) などが多く見られた。また、*biegen* の再主には、調査 i でも Tisch「テーブル」(7 例) がもっとも多く現れたが、調査 ii でもやはり Tisch「テーブル」(5 例) がもっとも多く見られた。同じく *reißen* の場合も、他目には、調査 i でも調査 ii でも、結果目的語 Loch「穴」(Milliardenlöcher「財政上の大きな損害 (>10 億の穴)」、Finanzloch「財政上の穴」なども含めて、それぞれ 26 例／16 例)、Lücke「裂け目」(2 例／4 例) と Schafe「羊」(4 例／4 例) が多く現れ、自主には、Faden「糸」(11 例／5 例)、Geduld (faden)「我慢 (の糸)」(6 例／5 例)、Serie「連続・シリーズ」(4 例／7 例) といった名詞が多く見られた。このように、それぞれ若干の差はあるものの、各動詞と結びつきやすい名詞に関しても 2 回の調査結果が大体一致することが確かめられた。なお、*brechen*、*reißen*、*biegen* のように非常に使用頻度が高かつ多義的に用いられる動詞における使役的用法／非使役的用法の割合や結びつく名詞の種類が、2 回のコーパス調査で同じような傾向が見られたということは注目に値するだろう。

ところでここで、いくつかの意味用法をめぐって、データ収集方法に修正が必要である。調査 i では、動詞 *biegen* がオーストリアの新聞・雑誌などの記事で「(スポーツ関連の文

脈で) ～を打ち負かす」¹⁹という意味で用いられることが多いことを述べ、この意味用法の事例も含めて分析を行なった。しかしこの意味用法については、Duden などの辞書にも記述が見られず、ドイツ人インフォーマントにもわかりにくいものであり(オーストリア出身の人はわかるが)、また本稿で問題とする使役交替とも関連付けにくい用法である。それを踏まえて、データ収集第2段階に戻って、このような意味用法の事例を取り除いて、新たに100例を抽出することにした。その結果、他動詞用法49例、再帰用法51例という割合になった。本稿ではこの結果を採択して以降の分析を行なう。

また、動詞 *reißen* の場合、mit sich 句と結びついて、「～を(水流などが)さらっていく」というような *mitreißen* の意味で用いられる場合があるが、このような事例に関しても *biegen* の場合と同じ作業が必要と思われる。

- (27) Die Fluten **rissen** Rucksäcke und Kleider mit sich, die Kinder waren aber zum Glück in Sicherheit. [Neue Kronen-Zeitung, 13.07.1997] 洪水がリュックや洋服をさらっていったが、運良く子どもたちは無事だった。
- (28) Die Lawine **riß** das Quartett, das auf große Bergerfahrung zurückblicken kann, mit sich. [Neue Kronen-Zeitung, 05.01.1996] 雪崩がその山行経験の豊富な4人をさらっていった。

このような事例は、調査 i でも調査 ii でも100例中4例の割合で見られた。これらは、移動を表わす前置詞句を伴ってはいないが、文全体の意味が対象の移動を表わすと考えられるため、この4例を取り除き、データ収集の第2段階で新たに4例を補充した。その結果、他動詞用法57例、自動詞用法43例という割合になった。*biegen* の場合と同様、この結果を採択して以降の分析を行なう。

2-4. 調査方法；コーパス調査とインフォーマント調査

すでに述べたように、本稿では、使役交替動詞の他目と自主・再主に現れる名詞の対応関係を調査することによって、どのような名詞の場合使役交替が成立し、どのような名詞の場合使役交替が制限されるのかを明らかにする。この節では、まず、それぞれの事例から他目あるいは自主・再主に現れる名詞の取り出し方について述べ、次に、それらの対応関係を調査する方法および手順を示す。いずれの段階においても、コーパスデータに基づいて補助的にインフォーマントテストを行う。

¹⁹ たとえば次のような事例がある。

HV Kärnten gastiert in der Aufstiegs-play-off heute beim HC Salzburg (19). Trainer Vlado Kajfes hat da zwei Punkte eingeplant. "Wir sind gut drauf und wissen, dass wir die *Salzburger biegen* können", gab sich gestern selbstbewusst. [Kleine Zeitung, 22.04.2000] HV Kärnten は今日昇格プレーオフで HC Salzburg とのアウェー試合に臨む。監督の Vlado Kajfes 氏は、そこで勝ち点2を狙っている。「私たちは調子もいいし、Salzburg は打ち負かせると信じている」と、Kajfes 氏は昨日自信ありげに言った。

2-4-1. 「他目」と「自主」・「再主」の取り出し

状態変化動詞は、当然ながら、他動詞構文・自動詞構文のみならず、様々な構文の中で用いられる。ここで言う「他目」と「自主」・「再主」とは、必ずしも実際の文に現れた主語・目的語というわけではなく、各状態変化動詞の意味上の主語・目的語を取り出したものである。すなわち、(29)の *der (=Telefonmast「電柱」)* のような受動文の主語や (30)の *Metall「金属」* のような *sein zu* 不定詞構文の主語も他目とした。また、動詞が *zu* 不定詞で用いられている場合、*zu* 不定詞の意味上の主語と意味上の目的語をそれぞれ自主・再主、他目として取り出した。たとえば、(31)のように名詞句を修飾する *zu* 不定詞や、(32)のように *um...zu...*「…を～するために」句の場合は通常の他目として取り出し、*zu* 不定詞を取る動詞文の場合は、意味上の目的語あるいは主語をそれぞれ他目あるいは自主・再主として取り出した（(33)の場合は自主に当たる）。

- (29) Er (=Motorradfahrer) prallte gegen *einen Telefonmast, der in Stücke **gerissen wurde***. [Kleine Zeitung, 21.08.1999] 彼（オートバイ運転手）が（すごいスピードで）電柱にぶつかって、電柱は粉々に壊れた。
- (30) Exler versucht eine Erklärung: *Metall sei zu schweißen, **biegen**, schleifen, schneiden*. [Salzburger Nachrichten, 23.07.1991] エクスラーは説明を試みる：金属は、溶接することができて、曲げることができて、表面加工ができて、切断することができる。
- (31) Im Juni 1989 wurde er unter dem Vorwurf, *die Partei zu spalten*, seiner Ämter enthoben und unter Hausarrest gestellt. [Die Presse, 16.09.1997] 1989年7月に彼は、党を分裂させようとしたという非難を受けて罷免され、自宅に監禁された。
- (32) *Um Blätter zu trocknen*, schneidet man die Triebe vor Beginn der Blütenbildung bis zu 15 Zentimetern über dem Boden. [Mannheimer Morgen, 22.05.1999] 葉を乾燥させるためには、花が咲き始まる前に、若芽を地面から15センチのところで切ったほうがいい。
- (33) Erst in den vergangenen Jahren hat *das Eis zwischen Christen und Muslimen langsam zu tauen* begonnen. [Züricher Tagesanzeiger, 25.02.2000] 最近になってやっと、キリスト教徒とイスラム教徒の間の氷のような関係が溶け始めた。

lassen 構文の場合も、同じように、本動詞の意味上の主語や目的語を取り出した。たとえば (34) の場合 *das Eis「氷」* は自主と見なし、(35) のように動詞 *färben* の意味上の主語（たとえば *Friseur「美容師」*）が省略されていることが文脈上明らかな場合は、*ihr Haar「髪」* を他目と見なした。また、(36) のような *sich lassen* 構文の主語は、受動文の主語と同様に他目と見なした。

- (34) Denn die Erderwärmung *lässt das Eis* von Jahr zu Jahr früher ***schmelzen***, was zu einer Dezimierung der Population geführt hat. [Salzburger Nachrichten, 16.11.2000]
地球温暖化が年ごとに早く氷を溶かして、それが人口の激減につながった。

- (35) Sie hatte sich *ihr Haar* fuchsrot **färben lassen**. [St. Galler Tagblatt, 01.11.2001]
彼女は髪を狐赤色に染めた ((美容師に) 染めてもらった)。
- (36) *Die Fondsitzebank* **läßt sich falten** und nach vorne klappen. [Neue Kronen-Zeitung, 25.02.1998]
(自動車の) 後部座席は折り畳むことができ、前へ倒すこともできる。

ところで、(37) (38) のような「sein+過去分詞」の形式で表わされる文の場合は、その文の主語を自主・再主と見なすべきかあるいは他目と見なすべきかの判断が困難であるという問題がある。

- (37) Nach der Pause **war der Widerstand der Hausherren** nach zwei Toren von Sabitzer (davon 1 Elfer) und Wieger endgültig **gebrochen**. Den Schlußpunkt zum sensationellen 5:1 setzte Anicic kurz vor Schluß. [Salzburger Nachrichten, 21.08.1996]
後半戦で Sabitzer と Wieger が 2 点を決めた後、ホームチームの抵抗は打ち破れた。衆目を集めた 5 対 1 という最終結果は、試合終了直前の Anicic のゴールによるものだった。
- (38) Anita (41) war immer stolz auf ihre Haut gewesen. (...) Einmal **ist die Haut** von Allergien **gerötet**. [Neue Kronen-Zeitung, 25.02.1996]
Anita (41) は肌にはいつも自信があった。(…) 一度アレルギーで肌が赤くなった (ことがある)。

なぜなら、このような「sein+過去分詞」の形式で用いられた文の場合、2通りの解釈——(37) のような他自動詞の場合は「自動詞用法の現在完了」と「状態受動」、(38) のような他再動詞の場合は「状態再帰」と「状態受動」——の可能性があり、それぞれの統語的主語 (der Widerstand 「抵抗」、die Haut 「肌」) は、前者と解釈した場合は「自主」・「再主」に、後者と解釈した場合は「他目」にそれぞれ当たるが、形式を見るだけではどちらかを判断することはできない (インフォーマントにもその判断は困難であるという) からである。

Helbig (1983; 50ff., 1984; 220f.) では、再帰動詞の過去分詞と sein の結合を「状態再帰 (Zustandsreflexiv)」と呼び、「状態受動 (Zutandspassiv)」と区別している。そして両者の違いは、構文形式からは区別がつかないが、以下のようなテストによって明らかにすることができ、状態再帰文の統語的主語は能動文の「他目」ではなく「再主」に当たると指摘している。

- (39) a. Das Mädchen ist verliebt. (Zustandsreflexiv)
b. *Das Mädchen ist verliebt worden.
c. Das Mädchen hat sich verliebt.
- (40) a. Der Brief ist geschrieben. (Zustandspassiv)
b. Der Brief ist geschrieben worden.
c. *Der Brief hat sich geschrieben.

また、次のような例を挙げて、(42c) のような再帰表現が容認されないのは、主語 *Mantel* 「コート」の意味素性が無生物 (*[-belebt]*) であるからだと説明している。

- (41) a. Das Kind ist gewaschen.
b. Das Kind ist gewaschen worden.
c. Das Kind hat sich gewaschen.
- (42) a. Der Mantel ist gewaschen.
b. Der Mantel ist gewaschen worden.
c. *Der Mantel hat sich gewaschen.

しかし、たとえば (43c) のような再帰構文が成り立つので、(43a) のような文は「状態再帰」であると考えられる。したがって、「sein＋過去分詞」の文の主語が無生物であっても、ただちにこれを「他目」であると断定することはできない。

- (43) a. Ihre Augen sind gerötet.
b. *Ihre Augen sind gerötet worden.
c. Ihre Augen haben sich gerötet.

そこで本稿では、Helbig (1983, 1984) におけるテストに倣って、インフォーマントテストを行い、その結果に基づいて他目と自主・再主を取り出した。他自動詞の場合は、「sein＋過去分詞」に *worden* をつけた「sein＋過去分詞＋worden」文と「sein＋過去分詞」を「当該動詞の過去形」に直した文を用いて、また他再動詞の場合は、同じく *worden* をつけた文と「再帰構文」に直した文を用いて、それぞれインフォーマントに文の容認性を判定してもらった。²⁰ その結果は、[1] 前者のみ容認される場合、[2] 後者のみ容認される場合、[3] 両方とも容認される場合、[4] 両方とも容認されない場合、の4通りに分かれた。[1] に該当する場合は、「sein＋過去分詞」が「状態受動」の形式であると考えられるため、その文の統語的主語を「他目」と見なした。[2] に該当する場合は、「sein＋過去分詞」が「自動詞の現在完了」あるいは「状態再帰」の形式であると考えられるため、その文の統語的主語を「自主」あるいは「再主」と見なした。²¹ しかし、[3] や [4] の場合は、当該の文から「他目」あるいは「自主」「再主」を取り出すことは困難である。²² そのためここでは、[3] や [4] に当たる事例を取り除き、²³ 再びデータ収集の第2段階に戻って事例を補充し

²⁰ インフォーマント調査は、Nürnberg (Bayern) 出身の20代のドイツ人女性1名に協力していただいた。

²¹ 他自動詞・他再動詞いずれにおいても、[1] (状態受動) より、[2] (現在完了／状態再帰) に判定されることが圧倒的に多かった。

²² ちなみに、(37) と (38) は、インフォーマントテストの結果、それぞれ [3] と [4] に判定された。

²³ この段階で省かれた他自動詞の事例は、*brechen* の3例、*knicken* の4例と、他再動詞の事例は、*dehnen* の1例、*öffnen* の1例、*schließen* の2例、*biegen* の3例、*spalten* の6例、*falten* の7例、*röten* の8例、*färben* の14例である。

た。²⁴

2-4-2. 「他目」と「自主」・「再主」の対応

以上のような方法で取り出した各動詞の他目と自主・再主に現れる名詞を基に、次はそれらの対応関係を調査する。まず、各動詞の 100 例の中に、他目としても自主・再主としても現れている名詞がある場合、その名詞を含む事例は使役交替を示すと言えることができる。次のような場合である。

- (44) a. Der Sturm Anfang Juni hatte *den Baum geknickt*. [Salzburger Nachrichten, 08.07.1999]
6 月初め頃の台風がその木を折り曲げた。
- b. Aufgrund der großen Neuschneemengen *knickte* vorgestern in Grän *ein Baum*, fiel auf eine Stromleitung und fing Feuer. [Tiroler Tageszeitung, 16.11.1996]
おととい Grän では、大量の新雪で木が折れ曲がり、電線の上に倒れて火がついた。

しかし、他目または自主・再主のどちらか片方にのみ現れている名詞の場合は、コーパスのデータを見る限り、その名詞を含む事例が使役交替を示すのか示さないのかの判断は困難である。なぜならば、分析の対象とする 100 例の中では使役交替が確認できなかったとしても、事例を増やせば使役交替で対応を示す事例が見つかる可能性が十分あるからである。このようなコーパス調査の不十分さを補うため、本稿では、補助的にインフォーマント調査を導入する。具体的には、他目または自主・再主の片方にしか現れなかった名詞を含む事例に関して、それぞれに対応する使役的表現／非使役的表現が容認されるかどうかのインフォーマント調査を行なった。それによって、コーパスのデータの中で交替が見られなかった場合、それぞれに対応する表現が、本来容認されない表現であるためか、それとも容認される表現ではあるがたまたま今回のデータに含まれてなかっただけなのかを判別した。たとえば、*Meinung*「意見、見解」は、コーパスのデータでは、(45a) のように *spalten* の他目にしか見られなかったが、インフォーマント調査により、(45b) のように *Meinung* が *spalten* の再主に現れた表現も容認されることが確かめられた。すなわち、「意見・見解が分かれる」という出来事は、(45a) のような使役的表現でも (45b) のような非使役的表現でも用いられる、使役交替の可能な事柄であると言える。

- (45) a. Die Irak-Krise *spaltet* die Meinungen in der Europäischen Union. [Züricher Tagesanzeiger, 09.09.1996]
イラクの危機が欧州連合 (EU) 内の意見をバラバラにした。
- b. Die Meinungen *spalten* sich. 意見が分かれる。

²⁴ ただし、動詞 *biegen* の場合は、この段階でさらに補充するための事例が残っていなかったため、総計 97 事例で以降の分析を行なうことになる。同じような理由で、動詞 *falten* は 97 事例、動詞 *färben* は 93 事例で以降の分析を行なう。

それに対し「病気を治す」のような事柄の場合は、コーパスデータで (46a) (47a) のような使役の表現のみ見られ、インフォーマントテストにおいても、(46b) (47b) のような非使役の表現は容認されないことが確かめられた。

- (46) a. Da das wendige und kluge Tier selbst von geschickten Jägern nur schwer zu besiegen war, galten Milch, Blut, Zähne und Fleisch der Gemse als besondere "Wundermittel", die *Krankheiten heilen* und vor Gefahren schützen könnten. [Salzburger Nachrichten, 01.06.1997]
その敏捷で賢い動物は巧みな猟師でさえも捕まえ難いため、シャモアの乳、血、歯、肉は病気を治し危険から身を守ることができる特別な「特効薬」と考えられていた。
- b. *Seine Krankheit *heilte*. 彼の病気は治った。
- (47) a. "Gebt mir Todkranke, nur ich kann *Krebs heilen*", verlangte er fortan. [Neue Kronen-Zeitung, 08.08.1995]
「重病患者は私に回してくれ、癌を治すことができるのは私しかいない」と、彼はそれ以降強く求めた。
- b. **Krebs heilt*. 癌は治る。

一方、他目と自主・再主に同じ名詞が現れ、表面的には使役交替を示している、使役の表現と非使役の表現が表わす事柄の性質が異なることから、使役交替の関係にあるとは思えない場合がある。²⁵ たとえば、*öffnen* の場合、冒頭の (2) に示した通り、「ドアを開ける」「ドアが開く」というように具体的にドアの開閉を表わす場合は使役交替が成立する。しかし、同じく意味カテゴリー「ドア (Tür, Pforte)」という名詞でも、次のような比喩的な意味で用いられ、文全体が「開業する」という意味を表わす場合は、他動詞用法の事例しか見られなかった。

- (48) 1909 ist sie an der Ecke Waldschmidt-/ Rhönstraße gebaut worden und *öffnete ihre Pforten*: die evangelische Neue St. Nicolai-Kirche. [Frankfurter Rundschau, 022.05.1999]
それは、1909 年に Waldschmidt-/ Rhönstraße の角に建てられ、その門を開いた。プロテスタントの新聖ニコライ教会だ。

(48) に対応する反対の意味として、「閉鎖・閉業する」という出来事を表わす場合も次のような他動詞用法のみで表わされる。

- (49) er (=Bürgermeister der Gemeinde) fürchte, die Post könne *ihre Filiale demnächst schließen*. [Frankfurter Rundschau, 031.10.1998]
彼 (=町長) は、郵便局がまもなく支局を閉鎖するかもしれない、と恐れていた。

²⁵ これは、何をもって「使役交替」と呼ぶかの問題でもある。

これらの事例に関しては、対応する再帰表現が同記事柄の表現として容認されないことがインフォーマントテストで確かめられたことから、使役的表現のみ可能な事柄として分類した。この分類の結果は、第3章に事例とともに挙げ、第4章における頻度分析の際にも適用される。

3. 事例分析 ～ 状態変化の事柄タイプと使役交替 ～

この節では、2-4 で述べたコーパス調査とインフォーマント調査の結果を総合的に分析して、どのような場合に使役交替が成立し、またどのような場合に制限されるのかを、「名詞+動詞」のコロケーションが表わす「事柄」のタイプで示していく。²⁶

3-1. 使役交替はどのような場合制限されるのか

3-1-1. 使役的表現のみ可能な事柄

使役交替動詞が使役的用法でのみ用いられる場合、表わされる事柄のもっとも目立つ意味特徴の一つは、人の意志的行為に基づく抽象の状態変化を表わすということである。その代表的な例として、Schweigen, Versprechen, Vertrag, Rekordなどの抽象名詞が動詞 *brechen* と結びついて、それぞれ「沈黙／約束／契約／記録²⁷を破る」という事柄を表わす場合が挙げられる。

- (50) Kurz vor dem Ende des Essener Hooligan-Prozesses hat gestern auch der vierte Angeklagte überraschend *sein monatelanges Schweigen gebrochen*. [Mannheimer Morgen, 19.10.1999]

エッセンのフーリガンの裁判が終わる直前に、驚いたことに第4番目の被告人も何ヶ月にもわたる沈黙を破った。

- (51) Als er 1939 endlich eingeladen wurde, an einer Nanga-Parbat-Expedition teilzunehmen, *brach* er *seinen Filmvertrag* und reiste mit seinen neuen Bergkameraden auf einem Frachtschiff nach Indien. [Salzburger Nachrichten, 04.07.1992]

1939年ついにナンガ・パルパット遠征に誘われた時、彼は、映画の契約を破棄して、新しい山の仲間たちと貨物船でインドに旅立った。

- (52) Wer das *Hochzeitsversprechen bricht*, ist vor dem Gesetz für alle entstehenden Kosten haftbar. [Neue Kronen-Zeitung, 02.04.2000]

結婚の約束を破る人は、法に基づきそれによって発生するすべての費用についての賠償責任を負う。

²⁶ ここでは、紙幅に制限もあり、本稿で調査対象とした16動詞の意味用法を網羅的に取り上げることはできないので、それぞれの典型的な事柄タイプを中心に述べる。

²⁷ 「記録を破る」という出来事は、次の事例にも見られるように、人が望むからといって必ずしも実現できるものではないが、基本的に人の意志に基づく行為を前提として実現可能な事柄であるということができる。

Der Algerier Noureddine Morceli scheiterte 1991 und 1993 zweimal beim Versuch, *diesen Rekord zu brechen*. [Zürcher Tagesanzeiger, 12.02.1997]

アルジェリアのNoureddine Morceli氏は、この記録を破ろうと1991年と1993年にわたって2回も試みたが失敗に終わった。

- (53) 1992 **brach** Microsoft mit Windows 3.1 endgültig *alle Verkaufsrekorde*. [COMPUTER ZEITUNG, 31.08.1995]

1992 年、マイクロソフト社は、Windows3.1 で最終的にこれまでの販売記録を更新した。

(51) (52) と反対の意味を表わす場合として、Vertrag, Bund, Freundschaft などの名詞と動詞 *schließen* が結びついて「契約／同盟／友情を結ぶ」という事柄の表現がある。

- (54) "Der Verein hat mit Zustimmung der Stadt *einen Zehnjahresvertrag* mit der Brauerei Engelhardt **geschlossen**, für den er monatlich 350 Mark abführt". [Berliner Morgenpost, 04.11.99]

「その団体は、市の承諾を得て、毎月 350 マルクを支払うということで、Engelhardt ビール醸造所と 10 年契約を結んだ。」

- (55) Wer den Bund fürs Leben **schließen** will, findet auf der Hochzeitsschau alles, um den schönsten Tag im Leben noch schöner zu machen. [Kleine Zeitung, 16.04.2000]

人生の契りを結ぶ（結婚する）予定の人は、ウェディングショーで人生の最高の日をより素晴らしくするためのすべてを見つけることができる。

- (56) Wir **schließen** Freundschaft durch Musik". [Mannheimer Morgen, 15.05.1996]

私たちは音楽を通して友情を結ぶ。

また、Recht, Gesetz, Ordnung などの抽象名詞が動詞 *biegen*, *dehnen* と結びついて、「法／規則を曲げる・曲解する」という意味を表わす場合も使役的表現にのみ限定される。

- (57) Das aber sei der Versuch, "*die Geschäftsordnung* so zu **biegen**, daß sie paßt", ärgerte sich Hugo Jung (CDU). [Frankfurter Rundschau, 06.02.1999]

しかしそれは、都合の良いように議員規則を曲げようとするものだ、と CDU の Hugo Jung 氏は怒った。

- (58) Das Musical hat eben *eigene Gesetze*. Und *die* werden von den Theatermachern der Kammerspiele dermaßen **gedehnt** und gebeugt, daß "Die Teufelin" eine alles zersetzende Musical-Farce wird. [Frankfurter Rundschau, 018.09.1997]

ミュージカルには特有の法則があるが、それは、劇場の監督によって、Die Teufelin がすべてを破壊する笑劇になるぐらいに延ばされ、曲げられる。

さらに、(48) と同じ事柄タイプとして次の事例が挙げられる。

- (59) Als 1907 die Nationalbank *ihre Pforten öffnete*, setzte man die 1883 erschienenen Einheitsnoten als Interimgeld ein, bis die nationalen Noten bereit waren. [St. Galler Tagblatt, 03.04.1998]

1907 年ナショナルバンクが開業した時は、国の通貨が準備できるまで、移行期の通貨とし

て 1883 年に発行されたものを使用していた。

このような事例は、名詞と動詞の組み合わせは同じでも、文全体が表わす事柄の意味タイプが異なれば、使役交替の成立可能性も違ってくることを示す点で興味深い。すなわち、(2) のように、具体的に「ドアを開ける／ドアが開く」という事柄を表わす場合は、使役的表現も非使役的表現も容認されるのに対し（後述する）、「ある組織がドアを開ける」というように比喩的な意味で用いられ、「開業・開店する」という事柄を表わす場合は、使役的表現しか容認されないということである。このような事柄が使役的表現でのみ可能であることは、文全体の意味を考慮して初めて見えてくるものであり、そういう意味でこのようなパターンは、(50) ～ (52) に示した「沈黙／約束／契約を破る」のように、動詞と結びつく名詞に「使役主としての人の存在」が含意されることによって使役交替が制限されるパターンに比べてより積極的に、文レベルの事柄分析の必要性を示唆するものと言える。

次に、状態変化動詞が具体名詞と結びついて具体的状態変化を表わすが、やはり使役的表現のみ可能な事柄タイプがある。このタイプには、身体部位の動きによる状態変化を表わす表現が当てはまる。たとえば、以下のような事例が挙げられる。

- (60) Es roch nach Krankenhaus. Vorsichtig **öffnete** er *die Augen*. Er lag im Halbdunkel. [Mannheimer Morgen, 02.07.2002]
病院のにおいがした。彼は用心深く目を開けた。薄暗いところだった。
- (61) Niesen ist nicht ungefährlich: *Die Augen* werden dabei jedes Mal automatisch **geschlossen**. [Mannheimer Morgen, 23.11.2002]
くしゃみの危険性は無視できない。くしゃみをすると目はその度に自動的に閉じられてしまうのだ。
- (62) Da **faltete** er *die Hände* zum Dankgebet, da machte er das Kreuzzeichen - und nach dem Ziel fiel er seiner Frau Maria in die Arme. [Neue Kronen-Zeitung, 29.08.1994]
そこで彼は感謝の祈りをするため手を組んで、手で十字架を切った。そしてゴールの後で妻の Maria と抱き合った。
- (63) Eine neuseeländische Ballerina sitzt in einer Ecke, **dehnt ihre Beine**, und (...) [Züricher Tagesanzeiger, 01.02.2000]
ニュージーランドのバレリーナは隅に座って、足を伸ばし、(...)

「目を開ける／閉じる」「手を組む」「足を伸ばす」のような「身体部位の動きによる状態変化」は、基本的に身体部位の持ち主である人の意志によって行なわれる動作であるために、常に主語を含む使役的表現でのみ表わされるということが出来る。それは、(61) のように意志的動作ではない場合も、非使役的表現ではなく、受動文によって表わされていることから伺える。また、この他の身体部位に関連する、使役的表現のみ可能な事柄として「髪を乾かす」「髪を染める」という表現が挙げられる。

- (64) Die Pantene Pro-V-Forschung hat festgestellt, daß 67% der Holländer *ihre nassen Haare mit einem Handtuch trocknen*, aber 69% der Italiener und 55% der Deutschen dazu lieber einen Fön benutzen. [Salzburger Nachrichten, 30.05.1998]
 パンテーン・プロ V の研究 (チーム) は、オランダ人の 67%は濡れた髪をタオルで乾かすのに対し、イタリア人の 69%やドイツ人の 55%はむしろドライヤーをよく使うという事実を確かめた。
- (65) Der zwanzigjährige Olliver ist gehörlos und hat sich letzte Woche *die Haare grün gefärbt* wegen einer Faschingsparty. [Züricher Tagesanzeiger, 25.03.1997]
 耳の聞こえない二十歳の Olliver はカーニバル・パーティーのために髪をグリーンに染めた。
- (66) nein, Radogoal soll *die Haare* nicht Ravanelli-grau *färben* lassen - Sturm findet ihn wahrscheinlich auch so zum Fürchten. [Neue Kronen-Zeitung, 18.09.1999]
 いや、Radogoalさんは髪を Ravanelliさんみたいなグレーに染めないほうがいい。Sturmさんはおそらく Radogoalさんもひどいと思うだろう。

「髪を染める」という事柄は、髪を持ち主である人の意志に基づく具体的行為（美容院に行くなど）なしに、髪が勝手に何らかの色に変化することは想像し難いために非使役的表現は認められないと考えられる。なお、髪を染める時は、通常美容院に行つて（あるいは他の人に）染めてもらうのが普通であるため、(66) のような *lassen* 構文で表わされることも多く、また染めた後の髪の色を表わす結果形容詞が文中に現れる場合が多く見られた。このタイプに類似する使役的表現のみ可能な表現として、髪代わりに顔など他の身体部位を示す名詞と結びついて、化粧に関する事柄を表わす次のような事例が挙げられる。²⁸

- (67) Wenn Sie *das Gesicht mit Theaterschminke färben* (z.B. weiß für Clown oder Vampir, rot für Teufel oder Indianer), (...). [Neue Kronen-Zeitung, 15.02.1997]
 お芝居用の化粧品で化粧をするときは(たとえば、クラウンや吸血鬼のように真っ白い顔に、あるいは悪魔やインディアンのように赤い肌)に、(…)
- (68) Wer Mascara nicht verträgt, hat aber immer noch die Möglichkeit, *die Wimpern vom Eriseur färben* zu lassen. (Quelle: Konsument 5/2000) [Vorarlberger Nachrichten, 13.05.2000]
 マスカラが使いこなせない人にも、美容院でまつげを染めてもらうという手がある。

さらに、身体の一部というより身体全体が関わる状態変化表現として、動詞 *heilen* によ

²⁸ (67) は、「顔の色の変化」を表わすという意味では、(105) に見られるように、使役交替可能な事柄に分類できるが、「化粧品を用いて化粧をする」という文意味においては、使役交替できない事柄に分類したほうが妥当であろう。

る「病気／患者を治す」という事柄が挙げられる。²⁹

- (69) *Eine Vielzahl von Krankheiten* könne unser Körper durch diese Heilungsmechanismen selbst **heilen**. [St. Galler Tagblatt, 08.03.1999]
多くの病気は、私たちの身体が自然治癒力で自ら治せるようだ。
- (70) *Angsterkrankungen* können von Spezialisten **geheilt** werden (...) [Berliner Morgenpost, 25.07.99]
不安症は専門家によって治療できる。
- (71) "Wir wollen *die Patienten* nicht nur **heilen**, wir wollen ihnen auch eine Lebensperspektive vermitteln", sagt Günter Hartmann. [Frankfurter Rundschau, 08.07.1999]
「私たちは患者（の病気）を治すだけでなく、彼らに今後の展望も与えたい」と Günter Hartmann 氏は言った。
- (72) In den letzten Jahren wurden große Fortschritte bei der Diagnose und Behandlung der DMD gemacht - ein Medikament, das *die Kinder heilen* könnte, gibt es aber noch nicht. [Frankfurter Rundschau, 02.11.1997]
最近、DMD (Duchenne Muscular Dystrophy; 筋ジストロフィー) の診断や治療に大きな進歩があったが、子どもたちを治せる薬はまだない。

このような事柄は、前述の「記録を破る」の場合と同じように、人の意志的働きかけで必ずしも実現できるとは限らないが、やはり医者あるいは薬の処置など何らかの積極的な働きかけがあつて引き起こされる事柄として捉えられていると考えられる。それに対し、後述する *Wunde*「傷口」の場合は、非使役的表現も可能で使役交替が成立する。

ここで、(64) (67) (68) における波線部の前置詞句に注目してみたい。まず (64) (67) の場合、「髪を乾く」や「顔の色が変わる」という事柄は、上で述べた「約束を破る」タイプのように必ずしも人の意志的行為に基づくものではない。それにもかかわらず、このような事柄の非使役的表現が見られないのは、(64) (67) における前置詞句との関連で説明ができそうだ。すなわち、「タオルを使って髪を乾かす」³⁰、「化粧品を使って化粧をする」というようにそれぞれの出来事の実現に用いられる道具が現れているため、その道具を用いる使役主が示されない非使役的表現は制限されるのである。また (68) の場合、「美容師にまつげを染めてもらう」というように手段的行為が含意されている。1. 1 で述べたように、絶対他動詞の場合は、動詞の語彙的意味に道具の使用や手段的行為が含意されているため非使役的表現が制限されると言えるが、他自動詞・他再動詞の場合は、他目に現れる

²⁹ 「病気（病名も含めて）」を主語にする非使役的表現は、インフォーマント調査により、通常容認されないことが確かめられたが、コーパスには次のような事例が見られた。

So genannte Trivialerkrankungen bei Erwachsenen, die normalerweise von selbst **heilen**, sollen nicht mehr zu den Kernleistungen zählen. [Mannheimer Morgen, 28.04.2000]

大人がかかるいわゆるささいな病気は、通常は自ずと治るので、もはや保険の対象に入れないほうが良い。

³⁰ (64) では、文脈上「髪を乾かす」のに用いる道具として「ドライヤー」も示されている。ちなみに、動詞 *föhnen* は、「ドライヤーを使って乾かす」というように道具の使用が動詞の語彙的意味に合意されているため、使役的用法にのみ用いられる。

名詞の意味特性や、前置詞句などによって道具や手段が示されることにより、非使役的表現が制限されると考えられる。

ここまでは、使役的表現のみ可能な事柄の場合は、その事柄の成立に使役主としての人の存在が含意されているからであるということを中心に述べてきた。しかし、それとは別な理由で非使役的表現が制限される場合もある。

- (73) Die erste Explosion **riß** ein riesiges Loch in das Schiff, versenkte es aber noch nicht. [Salzburger Nachrichten, 16.06.1995]
最初の爆発が船に大きな穴を開けてしまったが、船を沈めることはなかった。
- (74) Der internationale Schmuggel **reißt** Milliardenlöcher in den Steuersäckel der EU-Staaten. [Vorarlberger Nachrichten, 04.07.1997]
国際的密輸が EU 諸国の歳入事情に大きな穴を開けてしまう。
- (75) Ferdl Golds Tod **reißt** eine große Lücke in die Tiroler Leichtathletik. [Neue Kronen-Zeitung, 16.02.1996]
Ferdl Gold 氏の死はチロルの陸上競技界に大きな穴を開ける。

このような「穴をあける」タイプの表現における他目（たとえば、Loch「穴」、Lücke「裂け目」など）は、厳密に言えば、すでに存在していて状態変化を被る対象ではなく、動詞（ここでは *reißen*「裂く／裂ける」）が表わす出来事が実現した結果初めて出現する対象（結果目的語）であるという点で特徴的である。そのため、その結果目的語が出現する原因を与える使役主が示されない非使役的表現は認められないのだと考えられる。

3-1-2. 非使役的表現のみ可能な事柄

これまでとは逆に、使役的表現が制限され非使役的用法のみ可能な事柄は、大まかにまとめると、比喩的・抽象的な状態変化を表わす場合がほとんどである。

- (76) Zu dieser Zeit nämlich **biegen** sich bei offiziellen Anlässen *die Tische* unter der Last köstlicher Buffets. [Vorarlberger Nachrichten, 22.07.1998]
この時期は、公的な機会に、高価な料理でテーブルが曲がる（テーブルが曲がるほど高価な料理が並ぶ）。
- (77) An der Kasse im Supermarkt **reißt** Männern bereits nach vier Minuten und 43 Sekunden *der Geduldsfaden*, bei Frauen erst nach fünf Minuten und 59 Sekunden. [Tiroler Tageszeitung, 07.07.1999]
スーパーのレジで、男性は 4 分 43 秒ですでに我慢の糸が切れてしまうが、女性は 5 分 59 秒まで我慢できると言う。
- (78) Da **reißt** Staatsanwalt Gottfried Kranz, der bisher ruhig zugehört hat, *die Geduld*: [Kleine Zeitung, 28.08.1996]
それまで静かに聞いていた検事 Gottfried Kranz 氏はついに我慢できなくなった。

- (79) *Die Serie (=Siegesseire) riß*, aber seither hat Woods einmal gewonnen und war dreimal Zweiter, (...) [Die Presse, 04.04.2000]

勝利の連続は途切れたが、その後 Woods は、一度は優勝し、三回は 2 位だった。

- (80) Eine Halbzeit lang bot Groß-Rohrheim den Gästen Paroli, 12:12 hieß es beim Wechsel. Nach der Pause *riss der Spielfluss*. [Mannheimer Morgen, 16.01.2001]

Groß-Rohrheim は、前半戦では相手チーム Paroli に対抗してよく戦い、チェンジコートの時には 12 対 12 だったが、後半戦に入ってから試合の流れが途切れた。

(76) は、実際「テーブルが曲がる」というよりも、「テーブルが曲がってしまうほど重いものが乗っている様子」を表わすのに用いられることが多いが、実際物の重さでテーブルが曲がるという事態が生じるとしても、これは重力によって自然に行なわれる事柄であるために、人など使役主を主語とした使役の表現は容認されないと考えられる。また、(77) (78) の「我慢の糸が切れる」タイプの表現 ((78) は *die Geduld reißt* 「～の我慢が切れる」) は、「我慢できなくなる」という、人が自分の意志でコントロールできない状態を表わすために、同じく使役の表現が認められないと言える。(79) (80) のように、「連続して続くことや物事の流れが途切れる」タイプも、その事柄の性質上、人が直接コントロールできないものであるために、非使役の表現でのみ表されると思われる。ちなみに、(77) (78) タイプのヴァリエーション表現として、(81) のように *die Hutschnur reißt* 「帽子のひもが切れる」もあり、また (82) のように動詞 *dehnen* と結びついて、我慢の糸が切れる前の様子を表わす表現も見られた。

- (81) "Ich habe mich als Spieler ganz selten über die Schiedsrichter echauffiert, aber heute Abend ist mir *die Hutschnur gerissen*", [Frankfurter Rundschau, 028.09.1999]

「私は、選手として審判員に対して反抗することはめったにないが、今晚はもう我慢できなくなった。」

- (82) "Und noch immer *dehnt und dehnt sich unser Geduldsfaden*." [Die Presse, 09.04.1997]

「そして私たちの我慢の糸は段々と引き伸ばされる。」

スポーツ関連の表現として、動詞 *schmelzen* が主語 *Vorsprung* 「優位」と結びついて表わす「得点差が縮まる」タイプもある。

- (83) Auf 9:8 *schmolz der Vorsprung des Favoriten* bis zur Pause. [Mannheimer Morgen, 28.03.2000]

優勝候補のリードは、前半戦終了までで 9 : 8 に縮まった。

- (84) Mit zwei Punkten Vorsprung wechselten sie die Seiten bei 8 : 6, doch dann *schmolz der Vorsprung* auf 10 : 9. [St. Galler Tagblatt, 20.01.2001]

2 点リードの 8 : 6 で彼らはコートチェンジをしたが、その後リードは 10 : 9 に縮まった。

また、動詞 *reifen* によって、(85) (86) のように人の精神的成長や認識・考えの熟成など抽象的状态変化の事柄が表わされる場合や、(87) (88) のように果物や食品の熟成など具体的な状態変化の事柄が表わされる場合も、非使役的表現のみ可能である。

- (85) Inzwischen ist *der 24jährige* im Kunstturnerteam zur Leaderfigur **gereift**, [Züricher Tagesanzeiger, 22.04.1998]
そうこうするうちに、24歳の彼は、体操チームでリーダーに成長した。
- (86) Und *diese Erkenntnis* mußte erst einmal ganz langsam in den Köpfen der Bad Homburger **reifen**. [Frankfurter Rundschau, 012.10.1998]
そしてこの認識は、まず Bad Homburg の人々の頭の中でゆっくり熟成されなければならなかった。
- (87) In Kärnten **reifen sehr saftige Äpfel**. [Kleine Zeitung, 24.05.2000]
Kärnten ではとても汁たっぷりのりんごが熟す。
- (88) Andernfalls muß man *ihn* bei 15 bis 17 Grad **reifen** lassen, dann kühl lagern und mindestens eine halbe Stunde, bevor man ihn verwendet, aus der Kühlung nehmen. *Camembert* ißt man in erster Linie in originalem Zustand. [Neue Kronen-Zeitung, 20.09.1998]
カマンベールは15度から17度で熟成させて、冷蔵して、使う時は少なくとも30分前に冷蔵庫から出しておかねばならない。カマンベールは何よりも本来の状態で食べるのが大事だ。

なお、動詞 *reifen* は、Duden などの辞書には、*Die Sonne reifte die Pfirsiche*.「陽光がモモを熟させた」、*Diese Erfahrung/der Schmerz hat ihn gereift*.「その経験が／(精神的) 苦悩が彼を成熟させた」のような他動詞用法の例も挙げられているが、実際のコーパスデータでは100例すべてが自動詞用法であった。文中に人や状態変化の原因などを含む使役的な表現の場合は、(88) のように間接的な働きかけを示す *lassen* 構文によって表わされる。

以上、使役交替が成立しないと考えられる事柄を示した。しかし、文脈が整えば、使役交替の関係で対応する使役的あるいは非使役的表現が可能であることは言うまでもない。ここに示したのは、あくまでもコーパスの事例分析とインフォーマント調査に基づく結果である。言い換えると、インフォーマント調査により、対応する使役的あるいは非使役的表現が容認されないと判断された場合も、インフォーマントが思いつかなかっただけであって、特定の状況や文脈で容認される可能性は排除できない。

3-2. 使役交替はどのような場合起こりうるのか

使役交替が可能な事柄としてはまず、物の形状の変化を表わす表現が挙げられる。しかしこのタイプの場合、対象となり得る事柄の範囲が非常に広く、物の形状の変化を表わす事柄はすべて使役交替が成立するとは言えない。使役交替できるか、あるいは使役的表現／非使役的表現のいずれかのみ可能かは、当然ながら、状態変化の主体である物の性質と、

言語表現としてそれぞれの事柄がどのように捉えられるかによるところが大きい。³¹ ここでは、代表的に、高い割合で交替が見られた動詞 *knicken* の事例を挙げておく。³²

- (89) a. Plötzlich zog ein gewaltiger Sturm auf und **knickte die Bäume** im angrenzenden Gemeindewald wie Streichhölzer. [Kleine Zeitung, 21.08.1999]
突然激しい暴風が吹いて、隣町の森の木々をマッチ棒のように折り曲げた（>暴風が森の木々を折り曲げた）。
- b. Und weil der Schnee extrem naß und schwer war, **knickten** wieder *Bäume* sowie Äste und beschädigten Stromleitungen. [Neue Kronen-Zeitung, 06.04.1996]
そして雪がとても湿っていてまた重かったため、木々も枝も折れて、電線を破損した。
- (90) a. In jeder Hand trägt er ein Segelbootmodell aus Holz. Vorsichtig wie rohe Eier, denn die *streichholzdünnen Masten* sehen aus, als könnte schon ein Windhauch sie **knicken**. [Frankfurter Rundschau, 018.05.1998]
彼は両手に木でできたヨットのモデルを持っている。生卵のように注意深く、というのも、マッチ棒のように細いマストは、そよ風でも折れ曲がりそうに見えたから（>そよ風がマッチ棒のように細いマストを折り曲げる）。
- b. Boote aller Größenordnungen kenterten, *Maste knickten* wie Strohhalme, mehrere Yachten wurden von der See in Stücke gerissen und mußten von ihren Crews aufgegeben werden. [Mannheimer Morgen, 29.12.1998]
様々な大きさのボートが転覆し、マストはわらのように折り曲がり、多くのヨットが海によって粉々に壊されて乗組員たちは諦めるしかなかった。

次に使役交替が可能な事柄に、対象の質的狀態変化を表わす表現がある。たとえば、(91) のような「雪・氷が解ける」タイプや、(92) のような「傷口が治る」タイプが挙げられる。

- (91) a. Die Tageswärme **taut Schnee**, der sich nachts nicht hinreichend abkühlt, so daß eine matschige und gefährlich rutschige Schicht entsteht. [Frankfurter Rundschau, 07.08.1997]
昼間の暖かさが夜に十分に冷えてない雪を解かし、その結果、どろどろで滑りやすい危険な層ができています。
- b. Tagsüber **taut der Schnee** in den Tälern von Rhein und Neckar, aber die Nacht zum Freitag wird mit minus fünf Grad an den Flüssen und weit niedrigeren Temperaturen in

³¹ たとえば、また動詞 *falten* で表わされる「洗濯物 (Wäsche) をたたむ」、「厚紙 (Karton) を折り畳む」などの場合は、使役の表現しか容認されない。また、動詞 *biegen*, *brechen*, *reißen* でそれぞれ表わされる「板 (Brett) が曲がる」「枝 (Äste) が折れる」「ロープ (Seil)」がちぎれる」などの場合は、インフォーマント調査によって使役交替できるタイプとして分類されたが、実際のコーパスデータには非使役の表現しか見られなかった。

³² 動詞 *knicken* で表わされる「木々が折れ曲がる」という事柄表現は、台風など強い風が原因の場合は (89a) のような使役の表現で表わされる事例が多く見られ、雪の重さが原因の場合には (89b) のような非使役の表現で表わされる事例が多く見られた。

den Bergen sehr kalt. [Mannheimer Morgen, 20.12.2001]

昼の間は、ライン川とネッカー川の谷間の雪が解けるが、金曜にかけての夜は、川沿いは-5℃ぐらいで、山間部はもっと気温が低く、とても寒くなるだろう。

- (92) a. Wissenschaftler wollen *Wunden* erwachsener Menschen schon bald ohne sichtbare Narben **heilen**. Optimistisch stimmt sie, daß sich die Haut von Embryos narbenlos regeneriert. [Vorarlberger Nachrichten, 11.04.1997]

研究者たちは、近々、成人の傷口を見えない糸で治したいと思っている。胎児の皮膚は傷跡を残さず再生するという事実が研究者たちを楽観的にさせる。

- b. Sein Unterleib ist zerstört, *die Wunden* wollen nicht **heilen**. [Züricher Tagesanzeiger, 21.12.1999]

彼は下腹部を怪我したが、傷は治りそうもない。

このようなタイプは、同じ名詞と動詞の組み合わせで、次のように抽象的な意味で用いられる場合も使役交替が可能である。

- (93) a. Die Hochspringer liebten Show-Elemente. Und: Sie **tauten**, in ihrer Gruppe, *das Eis zwischen Ost und West*. [Frankfurter Rundschau, 023.03.1999]

走り高跳び選手たちはショーエレメントが好きで、グループの中で、東と西との間の氷のような固い雰囲気解かしてくれる。

- b. Der Wettbewerb der Kunstturnerinnen ist dagegen relativ neu im Turnfestprogramm: Der Frauenturnverband ging lange Zeit auf Distanz zum Spitzensport, *das Eis taute* erst in den siebziger Jahren. [Züricher Tagesanzeiger, 21.06.1996]

女子体操の試合は、体操競技で比較的新しい。女子体操連盟は長い間トップレベルのスポーツとは距離があった。その氷のような関係は70年代になってやっと解けた。

- (94) a. Die Einsamkeit ist erdrückend, aber die Zeit wird *die Wunde heilen*. [Vorarlberger Nachrichten, 15.12.1998]

寂しさはひどいものだが、時間が経てば傷は治るだろう。

- b. *Die Wunden der Vergangenheit* beginnen sehr, sehr langsam zu **heilen**. [Züricher Tagesanzeiger, 16.10.1998]

過去の傷はゆっくりと治りかけている。

(93) は、「抽象的な意味での氷が解ける」つまり「関係が良くなる」という意味を表わし、

(94) は、「精神的傷が治る」という意味を表わす。また、(93) に似た表現として、次のような「心が解ける・気持ちちが和らぐ」という意味を表わす事例もある。いずれも比喩的な表現である。

- (95) a. (...) und in einem Eispalast **schmelzen** ihre heißen Tränen schließlich *das gefrorene Herz ihres Liebsten*. [Mannheimer Morgen, 06.12.1995]

火の気のない寒いところで、結局は、彼女の熱い涙が恋人の凍りついた心を解かした。

- b. Stargast des Abends ist Schnuckenack Reinhard mit seinem Sinti-Jazz, einer virtuos vorgetragenen Musikrichtung, die *Herzen schmelzen* und Glieder zucken läßt. [Mannheimer Morgen, 03.07.1995]

今夜のスターゲストは Schnuckenack Reinhard である。彼は、ジプシーのジャズや、心をなごませ手足をしびれさせるほどの名演奏で知られている。

上では、(64) を挙げて「髪を乾かす」という事柄の場合は使役的表現のみ可能であることを述べたが、「涙が乾く」の場合は、(96) に見られるように、非使役的表現も可能で使役交替が成立する。また「具体物の乾燥」を表わす事柄も使役交替を示す事例が見られた。

- (96) a. *Viele Tränen* mußten **getrocknet** und viel Herzschmerz gelindert werden. [Mannheimer Morgen, 12.10.1998]

多くの涙が拭かれ、心の痛みが緩和されなければならない。

- b. Es wird lange dauern, bis *die Tränen trocken*. [Kleine Zeitung, 21.04.1999]

涙が乾くまでには時間がかかるだろう。

- (97) a. er zieht *Küchenkräuter*, **trocknet** und friert *diese* und verkauft sie an Lebensmittelkonzerne. [Frankfurter Rundschau, 07.01.1999]

彼はハーブを栽培し、それを乾燥させて冷凍し、食料品会社に販売する。

- b. *Das Kraut der Kartoffeln*, auf 68 Hektar gepflanzt, welkte und begann zu **trocknen**. [ND 28.08.69]

68 ヘクタールの畑で栽培されているジャガイモの草は枯れて乾き始めた。

「ドアを開ける／ドアが開く」タイプは、冒頭でも確認したように「具体的なドアの(閉まった状態から開いた状態への)状態変化」の場合、(98) (99) のように使役交替が見られるが、その他にも、(100) のような「ある場所の開放」という意味を表わす場合や、(101) のように「(催し物などの)開催・開会」という意味を表わす場合にも使役交替の形で表現可能であることがコーパスのデータから確認できた。

- (98) a. Sie **öffnete** die *Schlafzimmertür*, das Schloß klickte leise, und dann ging sie die hintere Treppe herab. [Berliner Morgenpost, 07.10.98]

彼女が寝室のドアを開けると、錠がかすかに音を立てた。そして彼女は後ろの階段を降りて行った。

- b. nächtliche Fragen nach Botschaften in Filmen quellen aus meinem Gerät. da **öffnet** sich *die Zimmertür*: Morpheus. [ZEIT (1986, Kultur), 28.02.86]

映画のメッセージに関する質問がラジオから流れる。その時に部屋のドアが開いた。

- (99) a. Am 9. November 1989 mußte die DDR unter dem Druck des Volkes *die Grenzen öffnen*. [Frankfurter Rundschau, 05.02.1999]

- 1989 年 11 月 9 日に旧東ドイツは国民の圧力で国境を開けざるを得なかった。
- b. Der HSG-Politologe Silvano Möckli hält dies für vorgegeben, auch wenn sich 1989 *die Grenzen gegen Osten geöffnet* haben. [St. Galler Tagblatt, 19.11.1998]
HGS (ザンクト・ガレン大学の) 政治学者 Silvano Möckli 氏は、1989 年に東ドイツへの国境が開いたにも関わらず、それを規定事項と見なしている。
- (100) a. Mit einem Antrag an das Stadtparlament wollen die Grünen den Bürgern häufiger *die Türen zu den Büchereien öffnen*. [Frankfurter Rundschau, 025.11.1999]
緑の党は、市議会に提案して、市民により頻繁に図書館を開放したいと考えている。³³
- b. Zugleich wolle sich *die Gesamtschule* mit derartigen Kulturangeboten auch für die Gemeinde *öffnen*. [Frankfurter Rundschau, 019.01.1998]
さらにこのような文化プログラムを提供する総合学校は一般市民にも開放される必要があるという。
- (101) a. Die Leipziger Messe, die am Sonntag *ihre Tore öffnet*, wird DDR-Ministerpräsident Willi Stoph eröffnen. [Mannheimer Morgen, 02.09.1989]
日曜日に開会するライプツィヒ見本市は、東ドイツの首相 Willi Stoph 氏が開会宣言するだろう。
- b. In diesem Jahr *öffnen* sich *die Tore der TSG-Halle* am 2. und 3. Dezember. [Mannheimer Morgen, 24.11.2000]
今年 TSG-Halle は 12 月 2 日と 3 日に開催される。

特に、(100) (101) は、(48) (59) に挙げたような「開業する」タイプの表現が使役的表現のみに限定されることとの対比で興味深いものである。

一方、抽象的な状態変化であるが使役交替が可能な事柄に、動詞 *spalten* で表わされる「組織などが分裂する・（人々の）意見が分かれる」タイプの表現がある。

- (102) a. Der Streit der beiden, die einander vorgeworfen hatten, sich in ihren Funktionen zu behindern, drohte *die Partei* zu *spalten*. [Frankfurter Rundschau, 023.11.1998]
お互いの職務を邪魔していると非難し合う二人の喧嘩のせいで党が分裂しそうであった。
 - b. *Die Stadt-SPÖ* hatte sich vor der Wahl nach internen Streitigkeiten *gespalten*. [Tiroler Tageszeitung, 10.04.2000]
オーストリア社会党市支部は、選挙の前に内部のもめごとで分裂した。
- (103) a. Die Isolation besteht also weiter fort, nur ist die Religionszugehörigkeit nur mehr eines unter gleichberechtigten Konfliktpotentialen, die *eine Gesellschaft spalten* können. [Frankfurter Rundschau, 01.03.1999]
孤立はこれから先も存続する。ただ宗教は、他と同様に社会を分裂させる対立可能性

³³ *Die Türen der Büchereien öffnen* sich nicht nur für die Studierenden sondern auch für die Öffentlichkeit. 「図書館は、学生だけでなく一般人にも開放されている」という表現も容認される。

の一つである。

- b. Unter Salinas hat sich *Mexikos Gesellschaft* mehr und mehr in zwei Hälften **gespalten**: [Salzburger Nachrichten, 11.01.1994]
Salina の政権下で、メキシコの社会はいよいよ二つに分裂した。
- (104) a. Das Verbot der Wohlfahrtspartei Ex-Premier Erbakans **spaltet die Islamisten**. [St. Galler Tagblatt, 25.02.1998]
元首相 Erbakan 氏率いる福祉党の差し止めがイスラム主義者たちを分裂させた。
- b. *Die Studierenden* sind in zwei Lager **gespalten**, einige sind euphorisch, bei anderen überwiegt Skepsis. [Salzburger Nachrichten, 06.10.1998]
学生たちは二つの立場に分かれた。一部は幸福感に満ちて、他の一部では疑いが優勢だった。³⁴

このタイプの表現は、他目あるいは再主に Gesellschaft「社会」、Partei「党」、Fraktion「派閥」、Nation「国家」、Staat「国」、Stadt「市」などの組織名詞や Volk「国民」、Familie「家族」、Menschen「人々」など人の集合を表わす名詞が現れるという点で特徴的である。

「身体部位の状態変化」表現で使役交替が見られる代表的なタイプには、動詞 *röten* による「体の一部が赤らむ」という事柄を表わす事例が挙げられる。

- (105) a. Ein frischer Herbstwind **rötet das Gesicht des Landrats**. [Frankfurter Rundschau, 012.11.1998]
さわやかな秋風で郡長の顔が赤くなった。
- b. Die chilischarfe Rindfleischsuppe hat Charakter. *Unsere Gesichter röten sich*, die Nase läuft. [Frankfurter Rundschau, 021.11.1998]
チリソースの効いた辛いスープは特徴がある。私たちの顔は赤くなり、鼻水が出る。
- (106) a. Der Kranke verdient unser Mitleid, keine Frage. Fraglos weiß er das, auch wenn ihm bloß eine durchschnittliche Grippe den Atem nimmt und *die Augen rötet*. [Die Presse, 08.04.1998]
その患者は私たちの同情を受けて当然だ。間違いない。彼は明らかに知っている、たとえば、単なる普通のインフルエンザが彼に息もできないようにして目を赤くするとしても。
- b. *Seine Augen röten* und verengen sich von Auftritt zu Auftritt. Die blasse Haut wird fahler. [Frankfurter Rundschau, 01.04.1999]
(劇の) 場を重ねるにつれ、彼の目は赤くなり細くなる。血色の悪い肌は段々血の気を失っていく。

³⁴ この事例は、以下のようなインフォーマントテスト (2-4-1 を参照) の結果により、「状態再帰」表現と見なした。

(a) **Die Studierenden* sind in zwei Lager **gespalten worden**.

(b) *Die Studierenden* haben sich in zwei Lager **gespalten**.

(105) は顔の色の変化, (106) は目の色の変化を表わしているが, その他にも, 「肌 (Haut) や頬 (Wange) が赤くなる」という事柄を表わす事例が使役交替の形で数多く見られた。その中には, 2-4-1 で触れた「sein+過去分詞」の形式で用いられるものが非常に多く, インフォーマントテストの結果, その大半は, 状態再帰表現と判定された。また, (67) では, 動詞 *färben* が他目に *Gesichter* 「顔」を取った場合「化粧する」という使役的表現でのみ用いられることを述べたが, 文全体の意味が「心理的な理由による顔色の変化」を表わす場合(「化粧」のように道具を用いた人の意志的行為による顔の色の変化ではない場合)は, (107b) のように再帰表現も可能であり, 次のように使役交替が成立することが確認できる。

- (107) a. Glücklicherweise weiss sie (=Kultur) von ihrer Pflicht nichts. Sie tut es einfach: Sie verstört, sie verunsichert, sie macht Mühe und *färbt unsere Gesichter* zornesrot. [St. Galler Tagblatt, 10.02.1999]

幸いなことに「文化」は自分の義務を知らない。単に(その義務を)果たすだけだ。文化は混乱させたり, ぐらつかせたり, 面倒をかけたり, 私たちの顔を怒りで真っ赤にさせたりする。

- b. da er aus Marias Blick erriet, daß sie die Worte seines Freundes gehört hatte, *färbte sich sein Gesicht* blutrot, (...). [ND 25.08.54]

彼は, Maria の目つきから, 彼女が自分の友達の言葉を聞いたことが推測できたので, 顔が真っ赤になり, (...).

「身体部位の状態変化」表現で使役交替が見られる代表的なタイプは, 身体部位を表わす名詞が動詞 *brechen*, *reißen* と結びついて, 「足や骨を折る」「靱帯が切れる」などの「身体の一部に怪我を負う」事柄を表わす場合である。³⁵

- (108) a. Nico Markovic, Trainer von Margareten, *brach* sich bei einem Reitunfall *eine Rippe*, wird aber Ende dieser Woche wieder das Training leiten. [Die Presse, 02.11.1995]

Margareten のトレーナーである Nico Markovic は, 乗馬中の事故で肋骨を折ったが, 今週の最後には再びトレーニングを指導するだろう。

- b. Zwei Männer schlugen einen anderen Mann am Butzbacher Marktplatz zusammen und versuchten sein Geld zu rauben. Dem Opfer *brachen zwei Rippen*, seine Zahnprothese und seine Brille wurden zerstört. [Frankfurter Rundschau, 01.08.1997]

2 人の男がある男を Butzbach の市場でさんざんに打ちのめし, お金を奪おうとした。被害者は肋骨が 2 本折れて, 義歯やめがねも壊れた。

³⁵ ただし, 次のような例の場合は対応する使役的表現は認められない。

Ihre Ursache hat diese Erkrankung der Bauchwand in einer Schwächung des Muskelgewebes und der Sehnen. Durch schwere Belastung *dehnt* sich *die Bauchwand* und es entstehen Löcher an den Schwachstellen. [Tiroler Tageszeitung, 08.02.1996] 腹壁の病気は, 筋肉組織や腱の低下が原因である。負担が大きいと, 腹壁が伸び, 弱いところに穴ができる。

- (109) a. Vor zwei Jahren hatte sich die Tirolerin in Grindelwald *das Kreuzband gerissen*, lange mit den Nachwirkungen zu kämpfen gehabt. [Die Presse, 20.12.1993]
 2 年前にそのチロル人の女性はグリンデルヴァルトで交差靱帯を切ってしまい、長い間その影響と戦わなければならなかった。
- b. [...] im 86-kg-Finale gegen den eingebürgerten Ex-Russen *riß Axels linkes Kreuzband*, morgen Operation! [Neue Kronen-Zeitung, 02.04.1995]
 帰化した元ロシア人との 86 キロ級決勝戦で Axel の左交差靱帯が切れた。明日手術だ。

ただしこのような表現は、他目と自主の対応が見られることから使役交替を示すものと見なされるが、使役的表現が「(人あるいは何らかの原因が) 使役的に働きかけて対象の状態変化を引き起こす」という (3a) の意味構造に当てはまるものではないという点で、上に示した他のタイプの事柄とは区別される。³⁶ これについては、第 4 章で再び触れる。

3-3. まとめ

以上、使役交替が成立するか否か、成立しない場合、使役的表現のみなのか非使役的表現のみなのかという観点で、使役交替動詞と名詞のコロケーションが表わす事柄のタイプを分類した。その結果は表 4 のようにまとめることができる。

【表 4】状態変化動詞の事柄タイプの分類 ～「±使役交替」の観点から～

動詞	使役交替	使役/非使役	事柄タイプ		例
絶他	－ (語彙)	使役[1-a]	様態を含む人の意志的行為による事柄		(4) (5)
他自・他再	＋ (語彙) － (事柄)	使役[2-a]	人の意志に基づく事柄	抽象的状态変化	(50) ~ (59)
				具体的状态変化	(64) ~ (72)
			結果目的語を伴う表現	身体部位の動きによる状態変化	(60) ~ (63)
				抽象的状态変化	(74) (75)
	＋ (語彙) ＋ (事柄)	交替[2-c]		具体的状态変化	(73)
				抽象的状态変化	(93) ~ (95)
				具体的状态変化	(89) ~ (92)
				身体部位の状态変化	(105) ~ (109)
絶自	＋ (語彙) － (事柄)	非使役[2-b]	人の意志でコントロールできない事柄	抽象的状态変化	(76) ~ (86)
				具体的状态変化	(87) (88)
	－ (語彙)	非使役[1-b]	自然力や対象の内在的性質による事柄		(14) ~ (16)

³⁶ このタイプを「使役交替」と見なすか否かについては異論があるかもしれないが、本稿では、他目と自主・再主の対応に基づいて、使役交替の成立有無を判断したため、上に述べたような問題があるにもかかわらず、このタイプも使役交替を示すタイプとして分類した。

この表から読み取れることを整理すると、以下のようなことが言える。

- ① 使役的表現のみ可能な場合 ([1-a]及び[2-a]タイプ) は、「人の意志に基づく行為による（あるいはそのように捉えられる）状態変化」であるために、「使役主の人」が示されない非使役的表現は制限される。また[1-a]タイプと[2-a]タイプの違いは、前者が「動詞の語彙的意味に人の行為の様態が含意されることによって人の存在が前提とされる」のに対し、後者は「動詞の語彙的意味としては人の存在を含意しているわけではないが、動詞と結びつく名詞（他目）や前置詞句など他の文成分によって文全体の意味に人の存在が前提とされる」と言うことができる。
- ② 非使役的表現のみ可能な場合 ([1-b]及び[2-b]タイプ) は、「人の意志でコントロールできない（あるいはそのように捉えられる）状態変化」であるために、使役主が示される使役的表現は制限される。この場合も[1-b]タイプと[2-b]タイプの違いは、前者が「動詞の語彙的意味の特性によって使役的表現が制限される」のに対し、後者は「主語に現れる名詞の意味的特性によって文全体が表わす意味が使役的表現にはなじまない」と言うことができる。このように、①と③の間には平行性が認められる。
- ③ 使役交替が可能な場合は、大まかに言って「人が関与することもできるが、他の要因で生じる可能性もある（あるいはそのように捉えられる）状態変化」と言うことができるだろう。必ずしも人の行為による状態変化ではないために、その人を取り外した非使役的表現が許されるように思われる。ただしこのような解釈に際しては、現実界の出来事として「人の使役的行為が必要か否か」ということだけでなく、それぞれの出来事が「言語形式で表現される際にどのように捉えられるか」、という観点をも考慮しなければならない。³⁷

4. 頻度分析 ～ 使役交替における他主 ～

第3節では、他目と自主・再主の対応に注目し、使役交替が成立する事柄と制限される事柄の抽出を試みた。その分析の結果に基づいて、使役交替の制限には事柄における「人」の存在が大きく関わっているという見解を示した。この節では、他主に現れる名詞の意味カテゴリーに着目し、使役主の観点から使役交替に関わる事柄の特性を考察する。なぜなら、使役的構文で表される事柄の場合、その出来事を引き起こす使役主（他主）は事柄の性質を規定する重要な一要素であり、それは、同じ事柄を非使役的にも表現可能かどうか（つまり、使役交替できるかどうか）に関わるポイントの一つであると考えられるからである。具体的には、表1と表4における、[2-a]タイプ（使役交替が制限される場合）の他主と、[2-c]タイプ（使役交替が可能な場合）の他主に現れる名詞の「人」vs.「物」の割合を調査する。他主に現れる名詞を見るので、当該の状態変化動詞が受動文や zu 不定詞の中で

³⁷ たとえば、Das Problem/Das Rätsel löst sich. 「問題が解決する／謎が解ける」という事柄は、現実界においては基本的に人の意志的行為に基づくものであると考えるのが妥当であるように思われるが、それを表わす言語形式としては再帰表現も認められる。このような場合、何に焦点を当ててそれぞれの事柄を表わすかという観点に関連しているのかもしれない。

用いられているなど、他主が文中に現れていない場合は、使役的表現に分類される表現であっても、ここでの調査対象からは除外される。

他主に現れる名詞を「人」と「物」の2つのカテゴリーに分類するにあたっては、(110)の主語 **Unternehmen**「企業」のように人の集合を表わす組織名詞や、(111)の主語 **Hunde**「犬」のように動物の場合も「人」主語とした。これらは、何らかの行為を行う意志があるという点で人と同じ性質を持っていると言えるからである。それ以外はすべて「物」主語とした。たとえば、(112)における **Sonne**「陽光」のように自然を表わす名詞や、(113)における **Rauchen**「禁煙」のように原因を表わす名詞などがある。

- (110) 38 ausländische Unternehmen sollen in den vergangenen fünf Jahren das UN-Waffenembargo gegen Südafrika gebrochen haben. [Die Presse, 09.11.1991]
38の外国企業が過去5年間で南アフリカに対する国連の武器輸出入禁止に違反したと言う。
- (111) Jagende Hunde rissen ein flüchtendes Reh. [St. Galler Tagblatt, 04.02.1999]
狩犬は恐れて逃げるノロジカを捕らえて殺してしまった。
- (112) Dazu kam, dass es am Sonntag etwas wärmer war als am Samstag und die Sonne den Boden weiter trocknete. [Züricher Tagesanzeiger, 06.03.2000]
それに、土曜日は日曜日に比べて多少暖かく、さらに日差しが地面を乾かした。
- (113) In keinem dieser Filme wird je darauf hingewiesen, daß Rauchen für schlechten Atem sorgt, die Zähne gelb färbt, (...) [Neue Kronen-Zeitung, 06.04.1998]
喫煙が呼吸を困難にし歯を黄色くしてしまう原因になるということは、これらの映画のどれを見ても言及されていない。

調査の結果、全体的に見て、[2-a]タイプの他主は、断然「人」主語の割合が高いのに対し、[2-c]タイプの他主は、[2-a]タイプほど極端な差はないが、「人」主語に比べて「物」主語の割合が高いことがわかった。ここで注目したいのは、[2-a]タイプに比べて[2-c]タイプの場合、「物」主語の割合が高い、ということである。

まず[2-a]タイプの他主について具体的に述べると、この事柄タイプの他主を10動詞(*brechen, biegen, dehnen, falten, färben, heilen, öffnen, reißen, schließen, trocknen*)を対象に調査したところ、215例が「人」主語で、49例が「物」主語という結果が得られた。「人」主語の事例は、3. 1で示した事例と似たようなものばかりなので、ここでは49の「物」主語の事例に注目してみたい。まずその内訳は、*brechen*の「記録・契約を破る」タイプで5例、*färben*の「物を変色させる」タイプで8例、*heilen*の「病気・患者を治す」タイプで11例、そして*reißen*の「穴をあける」タイプで25例である。

- (114) Bond-Film "Goldeneye" bricht Kinorekorde. [Mannheimer Morgen, 25.01.1996]
ジェームズ・ボンドの映画「ゴールデンアイ」が映画館の記録(観客数の記録)を破る。
- (115) Auch die Gymnastica 2001, die vom 18. bis 22. Juli stattfinden soll, werde wieder die Rekorde brechen. [Mannheimer Morgen, 19.12.2000]

7月18日から22日にかけて行なわれる競技会2001はまた（たくさんの）記録を破る（新記録が生まれる）だろう。

- (116) Die Betriebsvereinbarung **breche** in "mehreren Punkten" *den Kollektivvertrag*. [Salzburger Nachrichten, 16.02.1996]
企業間の協定は様々な点において共同契約を破る。

これらの例における下線部の主語「映画」「競技会」「企業間の協定」は、物主語ではあるが、すべて人によって作られたり行なわれたりするものであり、これらの表現においては擬人的に用いられていると考えることができる。また、次に挙げる *heilen* の物主語の事例についても同じことが言えそうだ。

- (117) Medikamente **heilen** *Allergien* nicht. [Oberösterreichische Nachrichten, 19.06.1996]
アレルギーは薬では治らない。
- (118) Gentherapeuten haben am Hopital Necker in Paris erstmals *zwei Kinder im Alter von acht und elf Monaten (...)* **geheilt**. [Salzburger Nachrichten, 28.04.2000]
遺伝子治療法は、パリのネッカー病院で8ヶ月と9ヶ月の二人の子どもを治した。

すなわち、これらの場合の主語「薬」や「治療法」は、病気を治すために人が用いる手段であり、また他の対象に影響を及ぼす効力を持つものであるため、使役主として他主に用いられるのだと考えられる。動詞 *färben* の場合は、以下に示す事例のように、物の変色を引き起こし得る具体的な物質名詞が主語に多く見られた。³⁸

- (119) Salzliebende Bakterien **färben** *Malerei* rosa. [Salzburger Nachrichten, 03.02.1998]
塩分が大好きなバクテリアは絵画をピンク色に変色させる。
- (120) "Die Inkrustationen sind zwar gesundheitlich völlig unbedenklich, aber sie können *die Wäsche färben*". [Mannheimer Morgen, 20.04.2002]
「洗剤かすは、健康に関連しては全く心配することないが、洗濯物を変色させる可能性がある。」
- (121) Die Textilfarbe **färbt** *alle Naturfasern* wie Baumwolle oder Leinen dauerhaft und gleichmäßig. [Neue Kronen-Zeitung, 21.06.1994]
繊維着色料は綿や亜麻のような天然繊維を長持ちできるようにそして均質に染める。

それに対して「穴をあける」タイプは、3-1 でも触れたように、他目が結果目的語であるという点で他の状態変化の事柄とは区別され、物主語に関しても上の *brechen*, *heilen* の場合とは違う捉え方ができる。

³⁸ このような事例は2-4-2に示したインフォーマント調査の結果、使役交替できない（すなわち、*Malerei*「絵画」、*Wäsche*「洗濯物」、*Naturfasern*「天然繊維」を再主とした表現は容認されない）と判定された。確かにこのような物は、自然に色があせる（*bleichen*）ことはあり得るとしても、勝手に変色を引き起こすことは想像しにくい。

- (122) Das Erdbeben riss große Spalten in Straßen und beschädigte Häuser. [Vorarlberger Nachrichten, 19.06.2000]

地震が道に大きな割れ目を作って、建物を壊してしまった。

- (123) "Unsere finanzielle Situation ist im Moment dramatisch", urteilt Verbandsobmann BM Hans Lintner. Nur 87 Prozent Auslastung im 1. Quartal reißen im Altenwohnheim, (...), ein Finanzloch von einer Million Schilling in nur drei Monaten. [Tiroler Tageszeitung, 24.05.2000]

「私たちの財政状況は危ういものだ」と会長のハンス・リントナー氏は言った。第一四半期に老人ホーム定員の 87% のしか入居者がいなかったことが、たった 3 ヶ月の間に 100 万シリングの財政上の穴を作ってしまった。

すなわち、このタイプにおける主語「地震」「入居者が少ないという状況」は、人が意図的に作り出した状況でもなく、対象に積極的に働きかけをする使役主というよりは、当該の出来事が生じる原因として捉えたほうが自然であろう。そういう意味では、「地震が原因で道に割れ目ができる」、「入居者が少なかったために財政に穴があいてしまう」というように、意味的には非使役的な事柄を表わしているように思われる。³⁹ しかし、状態変化の主体となる対象（ここでは、*Spalte*「割れ目」、*Finanzloch*「財政上の穴」）が、動詞の表わす事柄によって初めて生じるものであるゆえに、それを引き起こす原因となる要素を取り除いて非使役的に表わすことができず、ドイツ語ではこのような事柄は使役的に捉えられるのかもしれない。

次に、[2-c]タイプの他主について述べる。このタイプの場合は、全体的にみると物主語が多いが、細かく見てみると動詞によって「人」主語の割合が高いものと「物」主語の割合が高いものに分けられることがわかる。前者に当てはまる動詞には *öffnen*, *brechen*, *reißen* がある。動詞 *öffnen* は、ドア類の名詞 (*Tür*, *Tore*, *Pforte*) と結びついて「実際にドアや窓を開ける」という意味を表わす場合は「人」が、「ある場所を開放する」という意味で用いられる場合は (124) に見られるような「組織名詞」が、それぞれ主語に現れることが多いからである。

- (124) *Die Tore des Feuerwehrgerätehauses öffnet die Freiwillige Feuerwehr* am Sonntag, 26. Mai, beim Tag der offenen Tür. [Mannheimer Morgen, 02.11.2001] ボランティアの消防団は、公開日の 5 月 26 日の日曜日に、消防機具を置いてある建物の門を開く。

動詞 *brechen*, *reißen* は、身体部位を表わす名詞と結びついて「身体の一部に怪我を負う」という事柄を表わす事例の場合、人主語しか見られなかった。⁴⁰

- (125) Bei der Ostschweizer Rundfahrt *brach er* sich zudem *das Handgelenk*. [St. Galler Tagblatt,

³⁹ このような解釈は、結果目的語を伴う表現に一般的に認められるものではない。

⁴⁰ このタイプの事例は、*brechen* の場合 15 例、*reißen* の場合 8 例見られた。

14.11.1997]

東スイスの一周旅行の時、彼はまた手首の関節を折った。

- (126) Der dreifache Weltmeister hat sich bei den Goodwill Games *die linke Achillessehne gerissen* und mußte sich einer Operation unterziehen. [Mannheimer Morgen, 23.07.1998]

3度世界チャンピオンになったその選手は、グッドウィルゲームの時、左のアキレス腱に裂傷を負ってしまい、手術を受けなければならなかった。

しかしこのタイプにおける人主語は、ある対象に働きかけて状態変化を引き起こす使役主ではなく、自分の身体部位に怪我を負ってしまったという意味で、その出来事に責任を持つ者としての人であり、意味的には再帰的であると言える。⁴¹ このタイプを除くと、結果的に[2-c]タイプの人主語は、主に *öffnen* の場合に限られるということになる。

一方、後者すなわち「物」主語の割合が高い動詞は、*knicken*, *heilen*, *färben*, *röten*, *tauen*, *spalten* である。その中でも特に物主語の割合が高かったのは、*röten* [1 : 7] ⁴², *färben* [1 : 8] ⁴³, *knicken* [6 : 32], *spalten* [7 : 32] である。⁴⁴

- (127) Selbst die relativ schwache Sonnenstrahlung kann *die Haut* bereits unangenehm *röten*. [Mannheimer Morgen, 31.03.2003]

比較的弱い日差しさえも肌を赤くしてしまうことがある。

- (128) Der beginnende Herbst *färbt die Mischwälder* langsam bunt, (...) [Salzburger Nachrichten, 22.09.2000]

始まりつつある秋が混合林を徐々に様々な色に染めていく。

- (129) Pilze *färben das Herbstlaub* schwarz. [Berliner Morgenpost, 13.10.98]

キノコが秋の木の葉を黒く変色させる。

動詞 *röten* の場合、(127) のように「顔・肌・目が赤くなる」という事柄タイプにおいて、*Sonne* 「陽光」、*Sonnenstrahlung* 「太陽光線」、*Luft* 「空気」、*Wind* 「風」など自然を表わす名詞が他主に現れている事例が多く見られた。動詞 *färben* の場合、(128) のように季節を表わす名詞が主語に現れ、自然の変化を表わすのに用いられることもあれば、(129) のような具体的な物質名詞が主語に現れる事例も見られた。

⁴¹ 中右 (1998: 162f.) では、身体部位に関する表現及び「彼が窓を壊した」というような「意図しない結果を表わす使役構文」における人主語も、「結果に対して責任が問われる主体」である点で、プロトタイプの「使役行為者」と共通するスキーマで特徴づけられるという見解を示している。

⁴² 人主語の1例とは次の事例であるが、これは、実際に「目が赤くなった」という意味ではなく、人の絵を描いている様子を描写しているものであるため、厳密に言うところ、使役交替を示すタイプの事例とは言えない。

Er rötet Augen, malt Haare, deutet Brustwarzen an. [Frankfurter Rundschau, 025.03.1999] 彼は目を赤く塗り、髪の毛を描き、乳首をそれとなく描いた。

⁴³ *röten* の場合と同様 *färben* の場合も、人主語の1例は、(67) に示した「化粧」による顔色の変化であり、厳密に言うところ、使役交替を示すタイプの事例とは言えないタイプのものである。

⁴⁴ [] 内の数字は、使役交替が可能な事柄表現で他主が現れている事例のうち、「人主語の事例数：物主語の事例数」を示す。

- (130) Die orkanartigen Böen knickten riesige Bäume wie Streichhölzer. [Tiroler Tageszeitung, 04.06.1999]
あらしのような突風が巨大な木々をマッチ棒のように折り曲げた。
- (131) Die Pläne von Generalsekretär Liepelt zum Umgang mit der PDS spalten die Berliner CDU. [Berliner Morgenpost, 24.11.98]
リーペルト書記長による民主社会党 (PDS) との交流の計画が、ベルリンのキリスト教民主同盟 (CDU) を分裂させてしまう。
- (132) Die Spots haben das Land nämlich in zwei Lager gespalten. [Die Presse, 05.08.1993]
スポットコマーシャルが国を二つに分裂させてしまった。

動詞 *knicken* で (130) のように「木々が折り曲げる」という事柄を表わす場合は、Gewitter「雷雨」、Hurricane「ハリケーン」、Orkan「ハリケーン」、Sturm「暴風」、Wind「風」など強い風を表わす名詞が他主に現れている事例がほとんどであった。動詞 *spalten* の場合は、「ある組織や人々を分裂させる」という意味で用いられることが多いが、(131) (132) から読み取れるように、その大半は、状態変化の主体である組織や人の集合に属する人々の意見の相違によるものである。そのため、このような表現は、人主語とはなじみにくく (人が他人の意見に直接働きかけることはできないため)、人々の意見の相違を引き起こすきっかけや要因を表わす抽象名詞が他主に現れやすいと考えられる。なお、人々の意見の相違を引き起こす要因には、実に様々なタイプのもがあり、上の *knicken*, *röten* のように他主に現れる名詞の意味タイプを特定することはできない。

動詞 *heilen* の場合は、8 : 10 と物主語の割合が若干高かったが、物主語の事例 (10 例) のうち 6 例が、(133) のような、主語 *Zeit*、目的語 *Wunde* の「時間が傷口を治す」タイプのものだった。

- (133) Die ganze Affäre ist emotionell sehr hochgespielt worden, aber die Zeit heilt alle Wunden. [Neue Kronen-Zeitung, 19.02.1994]
その一連の出来事は感情的にとっても大げさに取り上げられたが、時間がすべての傷を治してくれた。

以上をまとめると、[2-a]タイプの他主は、プロトタイプ的に「人」であり、[2-c]タイプの他主は、頻度的にみて「物」の割合が高いということである。⁴⁵ それでは、使役交替が可能な事柄の他主 (使役主) に「物」が現れやすいということは何を意味しているのだら

⁴⁵ Mckoon/Macfarland (2000) は、英語の状態変化動詞のコーパス調査を行なっている。そこでは、「内的状態変化動詞 (Internally Caused Change of State Verbs)」の他主には自然を表わす名詞が多く、「外的状態変化動詞 (Externally Caused Change of State Verbs)」の他主には様々な種類の名詞が現れるということを述べている。また、内的状態変化動詞と外的状態変化動詞は、状態変化の主体 (他目と自主) と他主に現れる実体の種類で区別され、それは動詞の語彙的意味の雛型にも一致するという見解を示している。内的状態変化動詞の雛型は、状態変化の主体が状態変化の原因でもあることを表すものであり、したがって、内的状態変化動詞が他動詞的に用いられた場合、他主は状態変化をコントロールする実体ではなく、状態変化の出来事に本質的に内在している実体と言えるということである。

うか。

- (134) Der Sturm hatte die Dächer abgedeckt, *Hunderte Bäume knickten* wie Streichhölzer, Autos wurden zertrümmert. [Kleine Zeitung, 22.07.1997]

台風が屋根を飛ばし、数え切れないほどの木々がマッチ棒のように折れ曲がり、車は粉々に打ち砕かれた。

- (135) Die im Krieg zerstörten Häuser werden wieder aufgebaut, *die Wunden* in den Seelen der Menschen *heilen* aber nur sehr langsam. [Oberösterreichische Nachrichten, 10.11.1997]

戦争で破壊された建物は再び建てられる。しかし人々の心の傷はとてもゆっくりと治るだけだ（＝心の傷が治るまでには時間がかかるだろう）。

(134) (135) は、3-2 でも示した通り「木々が折れ曲がる」「傷が治る」という、使役交替が可能な事柄タイプの非使役的表現である。非使役的表現は、通常使役主を含まない表現であるが、(134) には動詞 *knicke* の意味上の他主と解釈できる *Sturm*「暴風」が文中に現れている。また、(135) は、文全体から「心の傷はゆっくり治る＝心の傷が治るには時間がかかる」という意味を読み取ることができる。すなわちこれらは、それぞれ「暴風が吹く」「時間が経つ」ことによって「木々が折れ曲がる」「心の傷が治る」という事態が生じたことを表わしている。このように、ある原因的事柄が先行して生じ、状態変化の事柄も一つのまとまった事柄として原因的事柄とは独立して生じるものとして捉えられている可能性がある。⁴⁶ *Der Sturm hatte den Baum geknickt*.「暴風が木を折り曲げた」、*Die Zeit heilt alle Wunden*.「時間はすべての傷を治す」という使役的表現は、原因的事柄とそれによって生じる状態変化の事柄の間に認められる因果関係を表わしたものである、⁴⁷ という解釈が可能ではないだろうか。同じことが (127) (128) や (131) (132) のような場合についても言える。

それに対して、「約束を破る」「沈黙を破る」など、人の意志的行為に基づく事柄の場合には、原因的事柄（人による働きかけも含めて）と状態変化の事柄を2つの文に分解してパラフレーズできないことからわかるように、使役的表現で一つの事柄を表わしている。そのために、状態変化の事柄のみを取り出して非使役的に表すことが制限されているのだと考えられる。

5. おわりに

5-1. 本稿のまとめ

本稿では、状態変化を表わす使役交替動詞の他目と自主・再主の対応に注目し、使役交

⁴⁶ 実際、「木が折れ曲がる」という出来事には何らかのエネルギーが関わっているはずだが、(134) のような非使役的表現が用いられるということは、言語表現としてはそのエネルギーとは独立して生じる出来事として捉えられていることを示すと考えられる。

⁴⁷ これまでには、ある名詞がある動詞の他目にも自主・再主にも現れるということに注目した統語的な見方で「交替 (Alternation)」として捉えられてきたが、意味的な観点で考えると別な捉え方ができるかもしれない。

替が成立する事柄と制限される事柄の抽出を試みた。その結果、使役的表現のみ可能な事柄はプロトタイプの「人によって引き起こされる事柄」であるために非使役表現が制限され、逆に非使役的表現のみ可能な事柄は「人がコントロールできない事柄」であるために使役的表現が制限されるという結論に至った。また、使役交替の制限をめぐるこのような事柄レベルの意味的特性は、動詞の語彙レベルで使役交替が制限される絶対他動詞や絶対自動詞の意味的特性とそれぞれ平行して認められることが確かめられた。一方、使役交替が可能な事柄は、「人が関与することのできる事柄もあれば、自然力やその他の様々な状況が要因で生じる事柄もある」というように、使役交替が可能な事柄独自の意味的特性の抽出は困難であった。また、このような考え方を裏付ける一つの手がかりとして、使役交替が制限される事柄表現の他主と、使役交替が可能な事柄表現の他主に現れる名詞の「人」vs.「物」の割合を調査し、頻度的な観点からも使役交替の成立・制限をめぐる事柄の性質の違いを探った。

5-2. 今後の課題

3-1 と 3-2 では、ある名詞がある動詞の他目と自主・再主の両方に現れうるか否かに基づいて、使役交替が成立すると考えられる事柄とそうでない事柄に分類し、それぞれどのようなものがあるかを具体例で示した。しかし、使役的構文と非使役的構文におけるある名詞の交替可能性——すなわち、当該の名詞を他目にとる他動詞構文と自主・再主にとる自動詞構文・再帰構文の容認可能性——には、動詞と名詞の意味的結合可能性（選択制限も含めて）以外にも様々な条件が関わっているように思われる。たとえば冒頭に挙げた (1) の場合、動詞 *brechen* は、名詞 *Ast* を他目としても自主としても取ることができ、「枝を折る／枝が折れる」という出来事に関しては使役交替が成立することが明らかである。

- (136) a. Er hat *den Ast* * (in zwei Teile) gebrochen. 彼は枝を* (二つに) 折った。
 b. *Die Äste* sind gebrochen. 枝が折れた。

しかし、(136a) から読み取れるように、in zwei Teile 「二つに」を省略するとこの文は容認度が著しく落ちる。このように、他動詞構文において結果を表す語句の有無が文の容認性に関わる現象は、*brechen* だけではなく *falten*, *reißen* など、状態変化動詞の中でも行為性の強い動詞、特に形状の変化を表わす動詞を中心に観察される。⁴⁸

- (137) a. Er hat *das Seil* * (in zwei Teile) gerissen. 彼はロープを* (二つに) 引き裂いた。
 b. *Das Seil* riss. ロープが引きちぎれた。

実際コーパスのデータには、(136a) (137a) のような使役的表現は見られず、(136b) (137b)

⁴⁸ 動詞 *brechen*, *reißen* に比べて結果性が強い動詞 *zerbrechen*, *zerreißen* の場合は、Er hat das Glas zerbrochen. 「彼はグラスを粉々に割ってしまった」、Er hat einen Brief zerrissen. 「彼は手紙を引き破った」のように、他動詞構文においてこのような制約が見られない。

のような非使役的表現が高い頻度で見られた。また動詞 *falten* の場合は、以下に挙げるような、何らかの結果語句あるいは行為の様態を表わす語句を伴っている事例が多かった。

- (138) Weil ein Postbote verunfallt ist, muss Globi kurzfristig für ihn einspringen. Er wehrt sich gegen bissige Hunde, indem er auf Stelzen geht; *faltet Korrespondenz zum Papierflieger* und schickt sie durchs offene Fenster. [Züricher Tagesanzeiger, 12.03.1997]

郵便配達員が事故に遭ったため、しばらく Globi が彼の代役を務めなければならなかった。彼はぎこちなく歩きながら猛犬から身を守り、手紙を紙飛行機に折って、開いた窓に投げて入れてやった。

- (139) Wohin mit der Wartezeit? Prüfender Blick auf die Falten der Hose, dann zum *Pochettli*, das er *mit geübten Griffen neu faltet*, jetzt in saloppen Schritten hin und her; die Absätze schlagen dandyhaft auf den Boden. [St. Galler Tagblatt, 19.01.1998]

待ち時間は何をしている？視線は、ズボンの折り目へ、そして彼が慣れた手つきで折り直したスーツのハンカチーフへ、今度はだらしない歩き方で行ったり来たり、靴のかかとかがダンディーらしくコツコツと床をたたく。

このように、行為性の強い動詞の他動詞用法は、他主が人で他目が具体的な物の場合に多く見られ、結果語句と結びつくことによってその行為の目的が明示されることが多いが、それは、人がある対象に物理的に力を加えてその物の形状を変化させる時は、通常何らかの目的があるからだと考えられる。

もちろん、*brechen*, *falten*, *reißen* が他動詞構文で用いられる場合、常に結果を表わす文成分を必要とするわけではない。たとえば、「足を折る」「契約を破る」などの場合には、特にそのような制限はない。また、動詞 *schmelzen* 「溶かす」、*tauen* 「解かす」、*trocknen* 「乾かす」などのように行為性の低いものや、動詞 *öffnen* 「(ドアを) 開ける」、*heilen* 「(傷を) 治す」、*röten* 「(目を) 赤くする」のように行為それ自体が同時に目的になる場合や具体的な結果状態が動詞に含意されている場合は、他動詞構文において結果語句を伴わなくても容認される。⁴⁹

ある名詞がある動詞の他目としても自主・再主としても用いられ使役交替できるということは、基本的な意味において、その名詞と動詞のコロケーションが表わす事柄を使役的にも非使役的にも表わすことができるということである。しかし、実際の使われ方を見てみると、使役交替が成立するには様々な要因が関わっていることがわかる。今後は、単に他目と自主・再主の対応関係だけでなく、他主や結果語句など他の文成分も考慮に入れてさらに精密な分析を行なう必要がある。どこまでを「使役交替」と認めるか、その定義についてはまだ再考の余地があるように思われる。

⁴⁹ 動詞 *färben* の場合は、語彙情報としてどのような色に染めたのかまでは含まれてないため、色を表わす形容詞と共起することが多いが、次の事例に見られるように、結果状態の色を表わす形容詞がなくても容認性に問題はない。

Sie hat sich *die Haare gefärbt* und versteckt ihre Liebhaber, um den Sohn nicht zu verstören. [Tiroler Tageszeitung, 22.09.2000] 息子を動揺させないように、彼女は髪を染めて、彼女のファンを隠した。

なお、使役交替が起こりうる事柄の場合でも、使役的用法と非使役的用法の言語運用における使用頻度には違いが見られる。たとえば、*brechen, reißen* が表わす「身体の一部に怪我を負う」タイプの場合、データで使役交替が可能であることが確認できたが、「怪我をする」タイプは、やはり身体部位の持ち主（人）が主語に現れた使役的表現の頻度が圧倒的に高かった。「具体物の形状の変化」を表わす場合も、大まかに使役交替が見られると言えるが、実は状態変化の主体の性質によって使役的表現の割合が高いものもあれば、逆に非使役的表現の割合が高いものもある。このように頻度の観点から、それぞれの事柄の無標表現・有標表現を抽出することも可能であろう。

また、本稿では、名詞との結びつきに注目し、使役交替動詞でも使役交替が制限される場合があることを述べたが、もしかしたら、語彙レベルで使役交替が制限される絶対他動詞・絶対自動詞の場合でも、名詞によっては使役交替が成立する場合があるかもしれない。もしそのような事例があるとしたら、それはどのような意味的・語用論的条件が満たされた場合なのだろうか。それは今後の課題としたい。

参考文献

- Levin, Beth and Rappaport Hovav, Malka 1995: *Unaccusativity : At the Syntax-Lexical Semantics Interface*. Cambridge, Mass.: MIT Press.
- Helbig, Gerhard 1983: Zustandspassiv, *sein*-Passiv oder Stativ? *Studien zur deutschen Syntax* Bd.1, Verlag Enzyklopädie Leipzig.
- Helbig, Gerhard and Buscha, Jochim 1984: *Deutsche Grammatik: Ein Handbuch für den Ausländerunterricht*, Verlag Enzyklopädie Leipzig.
- カン・ミンギョン 2001: 「ドイツ語「状態変化動詞」の統語的意味的分析」, 『DER KEIM』第25号, 東京外国語大学大学院ドイツ語学文学研究会.
- カン・ミンギョン 2003: 「言語運用にみるドイツ語「状態変化動詞」の自他」, 『DER KEIM』第27号, 東京外国語大学大学院ドイツ語学文学研究会.
- McKoon, Gail and Macfarland, Talke 2000: Externally and Internally caused Change of State Verbs, *Language*, vol.76, num.4.
- 中右実 1998: 『構文と事象構造』, 研究社.
- 成田節 1999: 「ドイツ語の他再動詞と他自動詞について」, 『東京外国語大学百周年記念論文集』.
- 大矢俊明 1994: 「能格性と再帰性」筑波大学現代言語学研究会『言語文化論集』23-35.
- Oya, Toshiaki 1996: Über die kausativ-inchoativen Alternationen im Deutschen. In: *Sprachtheorie und germanistische Linguistik*. Bd. 3. 7-16
- 大矢俊明 1997: 「ドイツ語における使役交替と非対格性」筑波大学現代言語学研究会『ヴォイスに関する比較言語学的研究』67-95.
- 坪井栄治郎 1993: チャレンジコーナ. 『言語』11月号(121-126), 12月号(122-127)
- Voorst, Jan Van. 1995: The semantic structure of causative constructions. *Studies in Language* 19.

Wright, Sandra Kimberly 2001: *Internally Caused and Externally Caused Change of State Verbs*.
Northwestern University, Dr. Dissertation.